



# CSR報告書2019

CSR Report 2019

## 経営哲学

# 人間尊重の経営

## 経営理念

私たち東洋インキグループは  
世界にひろがる生活文化創造企業を目指します。

- 世界の人びとの豊かさと文化に貢献します。
- 新しい時代の生活の価値を創造します。
- 先端の技術と品質を提供します。

## 行動指針

- お客様の信頼と満足を高める知恵を提供しよう。
- 多様な個の夢の実現を尊重しよう。
- 地球や社会と共生し、よき市民として活動しよう。
- 株主権を尊重し、株主価値の向上に努め市場の評価を高めよう。

## CSR報告書2019について

### 編集方針

東洋インキグループのCSR活動をご理解いただくため、2019年度は、CSR活動の方針や要点をまとめた冊子「CSR報告書2019」と、その内容を補足する「CSR活動報告・データ2019」に分けて報告を行いました。

「CSR報告書2019」では、CSRマネジメントとともに、2017年度に策定した5つの重要課題に基づいて、重要課題に関する考え方・方針、SDGsとの関連性、推進体制、主な活動を報告しています。前年度に比べてページ数を減らし、多くのステークホルダーの皆様に関心を持っていただくことを目的に編集しました。

例年CSR報告書に掲載している第三者意見は、今年度もNPO法人 循環型社会研究会(代表：久米谷弘光氏)に執筆いただき、「CSR活動報告・データ2019」に掲載しています。

### 対象期間

2018年1月1日～2018年12月31日

一部、2018年以前や2019年の情報も含まれます。

### 対象範囲

海外を含めた東洋インキグループ

ただし、環境パフォーマンスデータは、国内関係会社およびISO 14001の認証を取得している海外関係会社(ISO 14001の認証取得している海外関係会社の生産量は、海外関係会社全体の約75%)

### 参考ガイドライン

- ・社会的責任に関する国際規格「ISO 26000」
- ・GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード
- ・SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)
- ・環境省「環境報告ガイドライン 2018年版」

### 発行

日本語版：2019年6月(次回発行予定：2020年6月)

英語版：2019年8月(次回発行予定：2020年8月)

中国語版：2019年8月(次回発行予定：2020年8月)

### お問い合わせ先

東洋インキSCホールディングス株式会社 グループ広報室

〒104-8377 東京都中央区京橋2丁目2-1

TEL : 03-3272-5720 FAX : 03-3272-9788 E-MAIL : info@toyoinkgroup.com

### 東洋インキグループのCSR情報

#### ●CSR報告書2019 (日・英・中)

冊子 / PDF

東洋インキグループのCSR活動に関する基本的な考え方、5つの重要課題ごとの主な活動を報告しています。

#### ●CSR活動報告・データ2019 (日)

PDF

CSR活動の詳細を報告しています。環境および社会活動のパフォーマンスデータも掲載しています。

#### ●環境データ(日)

PDF

2000年度から2018年度までの環境に関する詳細データを記載しています。

#### ●ウェブサイト(日・英・中)

CSRに関連したトピックスを含めたCSR活動全般を報告しています。報告書のバックナンバーも掲載しています。CSR活動に関するご意見・ご感想はウェブサイトの「お問い合わせ」からお願いします。

#### 東洋インキグループウェブサイト

<https://schr.toyoinkgroup.com/ja/csr/index.html>



## CSR憲章

私たち東洋インキグループは創業以来、モノづくり企業として製品・サービスを通じてお客様・社員の方々・社会を支える皆様に寄与する生活文化を共に創造し、信用と信頼を得ることを最優先に取り組んでまいりました。

今、私たちは、化学製造業を中核とする企業グループとなり、社会に更に大きな影響を及ぼしていることを改めて認識し、あらゆるステークホルダーの方々との良好な関係を、今まで以上に維持・強化することに努めています。改めて自らの活動を分析・評価し、人・社会・経済・環境の切り口からバランスの取れた経営を実践することで、常に有形・無形の価値を生み出し、高め、提供していくことが社会的責任を果たすための重要な課題であると認識しています。

東洋インキグループは、これからもより一層の公正で自由なビジネスを継続させ、未来に向かって持続的成長につながる経営に努めます。  
(2005年4月制定) (2018年1月改訂)

## CSR行動指針

### □ 製品・サービスを通じた「価値」の提供

市場に対する新たな「価値」を創造し、人々の生活の質の向上、文化の発展および地球環境の改善に寄与する製品・サービスを提供することで、お客様とその先にいる消費者に向けて、最高の信頼と満足をお届けするよう努めます。

### □ 至誠を追求した事業活動

原料調達から製品販売にいたるすべての事業ステージにおいて、公正かつ適正な取引を行い、誠実を旨とした事業活動に努めます。その活動を通し健全な利益を生み出し、株主をはじめステークホルダーに還元します。

### □ 積極的なコミュニケーションと情報開示

様々な企業活動側面において、広く社会とのコミュニケーションを促進し、経営全般の情報を積極的かつ公正に開示します。

### □ 社会貢献活動への取り組み

社会的な価値のある生活文化の向上に奉仕すべく、本業を基盤とした社会貢献を行うとともに、地域との共生を目指した良き企業市民としての社会貢献活動を推進・支援します。

### □ 地球規模の環境保全の推進

すべての事業活動において環境負荷の低減に尽力します。また地球規模の環境問題を自身が担うべき最大の課題と捉え、その保全・保護に積極的に取り組みます。

### □ 快適で自己実現のできる職場環境の醸成

社員一人ひとりの個性と人格を尊重し、自主性と能力を十分発揮できる、働きがいのある、安全な職場環境づくりに努めます。国内・海外を問わず、人権を尊重し、差別のない労働環境を形成していくとともに、児童労働・強制労働など人道に反したことを認めません。

### □ コンプライアンスの徹底

国内・海外各国の法令はもちろん、国際条約や地域の社会規範を順守し、高い理性と良心と倫理観に基づいた判断と行動の徹底に努めます。

### □ 理想的な企業統治の構築

経営環境の変化やリスク管理に対して、より機動的かつ柔軟に対応できるグループ連峰経営体制を構築し、「社会から求められる企業の姿」を実現できる経営を目指します。

(2005年4月制定)

## CONTENTS

東洋インキグループの理念	1
CSR報告書2019について	1
トップコミットメント	3
東洋インキグループの概要	5
事業セグメント	6
東洋インキグループネットワーク	7
事業と社会とのつながり	9

### 東洋インキグループのCSR

社会への価値提供のために	11
CSRの重要課題とCSR活動の進捗	13

### 重要課題報告

#### 重要課題1

お客様の期待を超える価値を提供し、社会に貢献する	15
・事業ドメインにおける価値提供	16
・パッケージにおける価値提供	17
・パッケージのさらなる社会課題解決に向けて	18
・デジタルトランスフォーメーションに向けた価値創造	19
・〈TOPICS〉SDGsの発信と事業を通じた貢献を目指して	20

#### 重要課題2

革新的技術を通じて環境と共生する	21
・再生可能エネルギーへの取り組み	22
・気候変動リスクと機会への対応	22

#### 重要課題3

サプライチェーンと共存共栄を図り、ステークホルダーの信頼に応える	23
・人権に関する取り組み	24
・サプライチェーンマネジメント	24

#### 重要課題4

社員を大切に、幸せや働きがいを追求する	25
・ダイバーシティ推進に関する取り組み	26

#### 重要課題5

信頼を支える堅実な企業基盤を築く	27
・グローバルでのマネジメント強化	28
・社外取締役からのコメント	28

財務情報／非財務情報	29
------------	----

## トップコミットメント

# 社会の長期的な変化に 対応し、課題解決に向けて 挑戦を繰り返す

東洋インキSCホールディングス株式会社  
代表取締役社長 兼 グループCEO

北川 克己



## 真のサイエンス・カンパニーとして 社会課題解決に取り組む

私たちを取り巻く環境はかつてないほど多様で複雑になっており、中でも世界が直面している長期的な変化は、人口増加と第二の情報革命といわれるデジタルトランスフォーメーションであると考えています。

世界の人口は1日で22万人も増えており、2055年には100億人に達するといわれています。人口の増加とそれに伴う資源の消費と廃棄の増大、環境破壊の加速などが環境面の課題として認識され、また、貧困や飢餓、不平等に苦しむ人々が存在し、人類の持続可能性に警鐘が鳴らされています。そのような中、人類共通のアジェンダとして「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択され、ビジネスセクターの貢献も求められています。

一方、AIやIoT、ブロックチェーンといった技術がもたらすデジタルトランスフォーメーションは、社会課題解決に資する手段として有望視されていますが、既存の社会構造や人間存在の再構築を人類に提示しています。

こうした長期レンジでの変化は、生活者を最終のお客様として考えている私たちにとっては、使命として取り組むべき課題であり、真のサイエンス・カンパニーを掲げている私たちが、成長するとともに信頼を支える企業基盤を築く機会として、能動的にこれらをとらえるべきだと考えています。

私たちは、創業200年となる2096年、さらにその先の「サステナブルグロース(持続的な成長)」に向けて長期構想「Scientific Innovation Chain 2027(SIC27)」を定め、2027年までの期間を通じて、100年レンジでの持続的な成長が可能な企業体質への変革に取り組んでいます。そのために、経営理念の「生活文化創造企業」の対象を生活者から生命や地球環境にまで広げ、また、事業活動と関わりの深いSDGsの目標を明確にした上で、課題解決の方向性としてライフ、コミュニケーション、サステナビリティの3つのサイエンス分野でくられた11のドメインを掲げました。(P.15参照)

既に、独自のデジタル技術を用いた非光学式行動検知システム「Fichvita®」の実証実験などの取り組みを開始していますが、引き続き、これらの事業領域で戦略的にビジネスを構築することにより、社会への新たな価値提供を目指していきます。

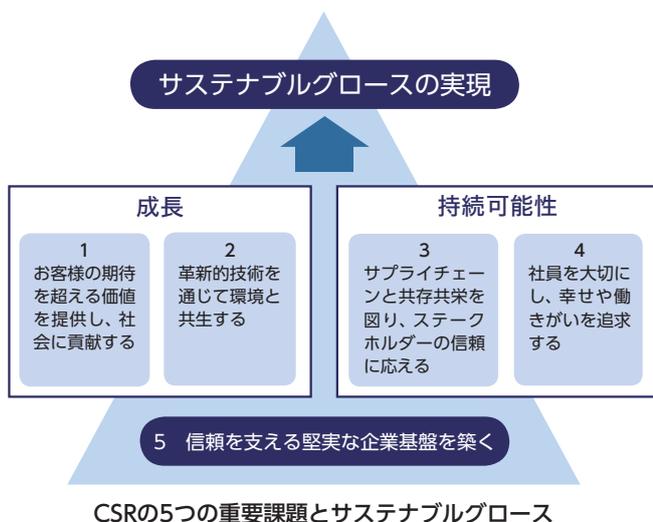


東洋インキグループの事業活動と  
関わりの深いSDGsの12の目標

## 経営との連動を図り CSR活動をより一層推進する

CSR活動については、ステークホルダーとのダイアログを繰り返しながら、社会課題の解決により成長を図る重要課題、持続可能性を支える重要課題、そして信頼を支える堅実な企業基盤を築く重要課題の、合わせて5つを策定しました。また、それぞれの重要課題とSDGsの目標との関連を明確にし、長期構想とその最初の中期経営計画「SIC- I」の1年目である2018年度に活動を開始しました。「実行項目」「ありたい姿」や2018年度の実績などをもとに、重要課題ごとのKPIや2020年度目標を明確にしましたが、引き続き、より実効性のあるKPIとマネジメント体制の検討などを行い、中期経営計画と同様、3年間の単位でPDCAを回して経営戦略との連動を図りながらCSR活動を推進していきます。

なお、2018年度のCSR報告書と環境報告書は、これまでの優良賞を上回る「第22回環境コミュニケーション大賞」の優秀賞を受賞しました。2019年度は、東洋インキグループのCSR活動を多くの方にご理解していただくために、CSR活動の主な活動をまとめた冊子と、それを補足する「CSR活動報告・データ2019」を発行し、環境活動の詳細はそちらに記載しました。



## 挑戦を繰り返し「For a Vibrant World」の実現を目指して

2018年度は「新会計年度スタートの年 SIC27の実現に向けて力強い一歩を踏み出そう」というスローガンのもと、長期構想と中期経営計画「SIC- I」をスタートしました。新案件の拡販や新領域への着手は進んだものの、事業環境の悪化から増収減益となりました。この結果をもとに、私たちは、今までのやり方の延長ではなく、長期構想や中期経営計画を見つめ直し、CSRの重要課題をグループ全体で共有して、具体的な行動変革を加速していくことの重要性を再確認しました。

2019年度、新たなスローガンとして「SIC27実現に向け、事業の構造改革と企業体質の変換にグループ全体で取り組み、真のサイエンス・カンパニーとして飛躍していこう」を掲げています。①市場や顧客ニーズの変化をとらえた新たな事業展開と価値提供、②モノづくり企業として、国内外各拠点のサプライチェーン、製品構成、製法・処方を根本から見直し、技術優位で市場を主導、③変化をいとわず、挑戦を促す風土・人事制度の刷新と業務改革、の3つを基本方針として、SIC27の2年目、挑戦を繰り返す中計SIC- Iの折り返しの年として活動に取り組めます。

そして、グループの強みを生かし、また、必要なパートナーシップのもと、長期構想やCSRの重要課題を通して社会課題解決に向けた価値提供を行い、東洋インキグループの提供価値である“For a Vibrant World”の実現を目指すとともに、社会からの信頼に答えていきます。

東洋インキグループの「CSR報告書2018」「環境報告書2018」は、「第22回環境コミュニケーション大賞」「第4回アジアサステナビリティ報告賞」において、いずれも『優秀賞』を受賞しました。



# 東洋インキグループの概要

## ■ 東洋インキグループ

関係会社：国内19社、海外54社  
(連結子会社64社、持分法適用関連会社9社)  
連結売上高：2,902億8百万円  
連結社員数：8,274名

[ 持株会社 ]

## ■ 東洋インキSCホールディングス株式会社

TOYO INK SC HOLDINGS CO., LTD.

本社所在地：〒104-8377 東京都中央区京橋2丁目2-1  
創業：1896年(明治29年)1月15日  
創立：1907年(明治40年)1月15日  
取締役会長：佐久間國雄  
代表取締役社長 兼 グループCEO：北川克己  
資本金：317億33百万円  
社員数：410名  
ウェブサイト▶<https://schd.toyoinkgroup.com/>

[ 中核事業会社 ]

## ■ トーヨーカラー株式会社 TOYO COLOR CO., LTD.

設立：2012年(平成24年)4月1日  
代表取締役社長：千羽和男  
資本金：5億円  
社員数：505名  
事業内容：色材・機能材関連事業  
ウェブサイト  
▶<https://www.toyo-color.com/>

## ■ トーヨーケム株式会社 TOYO CHEM CO., LTD.

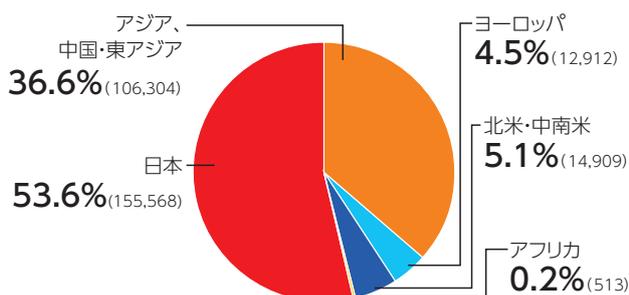
設立：2011年(平成23年)4月1日  
代表取締役社長：高島 悟  
資本金：5億円  
社員数：434名  
事業内容：ポリマー・塗加工関連事業  
ウェブサイト  
▶<https://www.toyo-chem.com/>

## ■ 東洋インキ株式会社 TOYO INK CO., LTD.

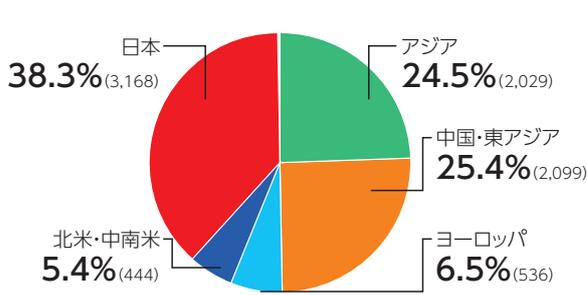
設立：2011年(平成23年)4月1日  
代表取締役社長：山岡新太郎  
資本金：5億円  
社員数：807名  
事業内容：パッケージ関連事業  
印刷・情報関連事業  
ウェブサイト  
▶<https://www.toyoink.jp/>



地域別売上高(連結) (単位：百万円)



地域別社員数(連結) (単位：名)



# 事業セグメント

## 色材・機能材関連事業

- 汎用顔料 ●高機能顔料 ●顔料分散体 ●プラスチック着色剤
- 記録材塗料 ●液晶ディスプレイ用カラーフィルタ材料

2018年度売上高構成比…26%

売上高……746億60百万円

営業利益……53億90百万円

代表的なブランド

- **Lioplax®**  
Lioplax®は、お客様のニーズに応じたさまざまな色彩や機能性を付与することができるプラスチック着色剤です。
- **LIOACCUM®**  
LIOACCUM®は、トーヨーカラーが販売展開するリチウムイオン電池電極用材料です。
- **LIONOL (有機顔料)**  
有機顔料は、印刷インキ、塗料、プラスチックの着色だけでなく、化粧品、カラーコピー用トナー、インクジェットプリンタ用インキなど色彩を必要とするさまざまな用途に用いられています。
- **LIOCOLOR (顔料分散体)**  
顔料製造で培われた独自の分散技術により、透明性、鮮明性や各種耐性の高い顔料分散体を提供しています。

## ポリマー・塗加工関連事業

- 塗工材料 ●粘接着剤 ●ラミネート接着剤 ●ホットメルト接着剤
- 樹脂 ●製缶塗料 ●天然材料

2018年度売上高構成比…23%

売上高……660億99百万円

営業利益……60億35百万円

代表的なブランド

- **フィニッシュェス®**  
フィニッシュェス®は、各種飲料・食品などの内容物保護や、金属の腐食防止・装飾などの目的で、スチール缶やアルミ缶の内面・外面に塗工されている製缶塗料です。
- **オリバイン®**  
オリバイン®は、ラベル用途や建材・家電などの工業分野やエレクトロニクス分野に幅広く用いられる粘着剤(感圧性接着剤)です。
- **ダイナカル®**  
ダイナカル®は、色材と粘着剤を組み合わせた“貼る塗料”ともいわれるマーキングフィルムです。
- **ダブルフェース®**  
両面テープ「ダブルフェース®」は、一般工業用だけでなく印刷・電子部品・自動車・建材などさまざまなフィールドで使用されています。

## パッケージ関連事業

- グラビアインキ ●フレキシオンキ ●グラビア溶剤 ●グラビア機器・製版

2018年度売上高構成比…24%

売上高……680億47百万円

営業利益……14億91百万円

代表的なブランド

- **リオアルファ®**  
ノントルエン・ノンMEK型高性能汎用ラミネートインキで、欧州規制(スイス条例)に準拠した食品包装を中心とした「軟包装・ラミネート加工分野」で使用されています。
- **アクワエコール®**  
ノンボイル用途からボイル、レトルト用途まで幅広く使用できるラミネート用水性グラビアインキです。
- **アクワリオナ®**  
欧州規制(スイス条例)に準拠したインキ設計で、ノンボイル用途からボイル、レトルト用途まで幅広く使用できる軟包装パッケージ向けの水性ラミネート用フレキシオンキです。
- **LPバイオ**  
欧州規制(スイス条例)に準拠したインキ設計で、ノントルエン・ノンMEK型フィルムラミネート用グラビアインキです。
- **レアル® NEX BO、PANNECO®**  
ノントルエン型フィルム表刷り用グラビアインキです。

## 印刷・情報関連事業

- オフセットインキ(オフ輪・枚葉インキ) ●UV(紫外線)硬化型インキ ●スクリーンインキ
- 新聞インキ ●金属インキ ●インクジェットインキ ●印刷材料および機器

2018年度売上高構成比…28%

売上高……793億78百万円

営業利益……9億31百万円

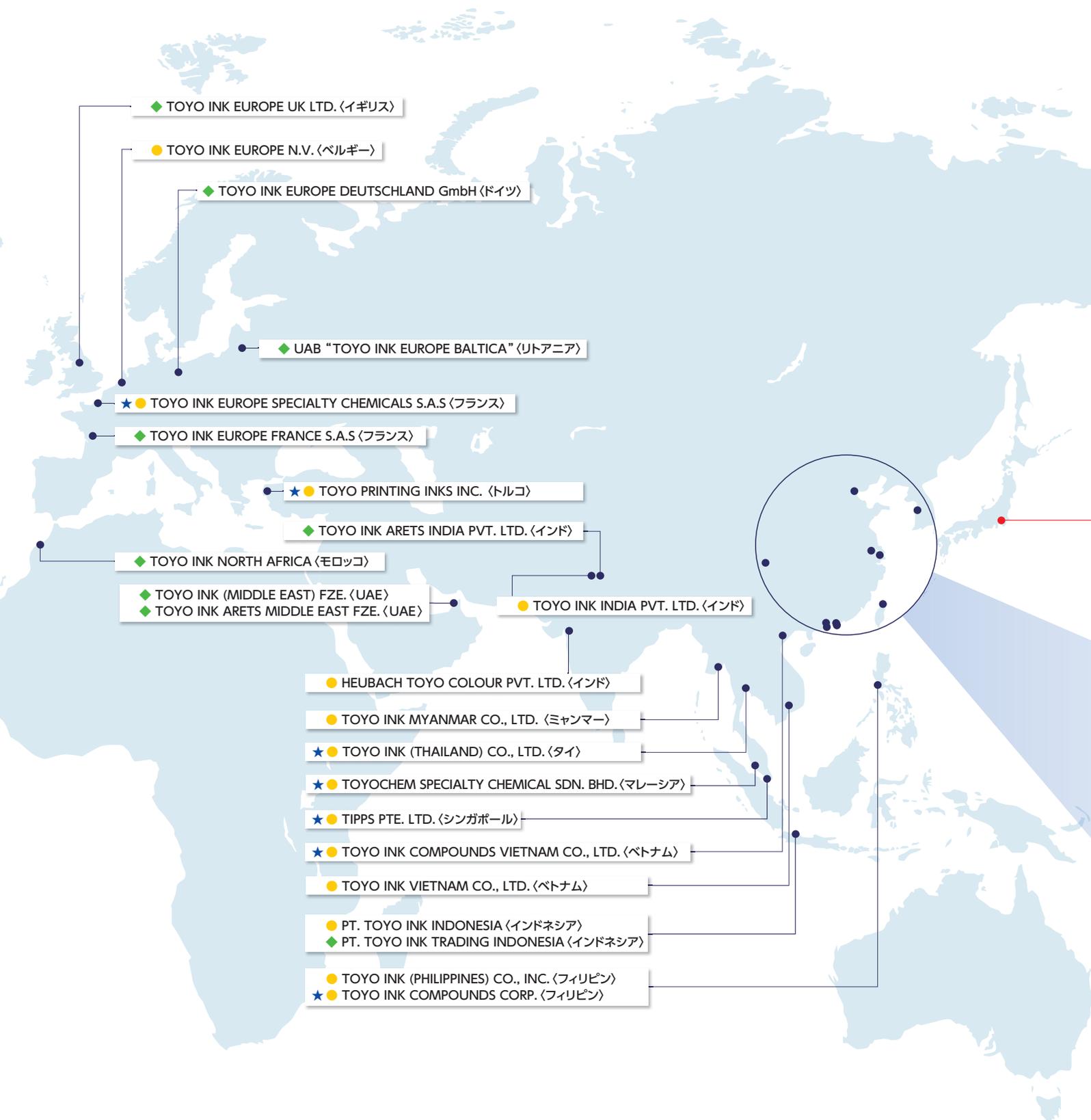
代表的なブランド

- **FLASH DRY® LPC EX**  
省エネルギー性、印刷物リサイクル性に優れた高感度UV硬化型オフセットインキで、「インキグリーンマーク(igマーク)」における最高基準「ig★★★」を取得しています。
- **WEB DRY® レオエックス®**  
植物由来原料を使用し、環境負荷に配慮した、更紙からコート紙までの幅広い用紙グレードに使用できるオフセット輪転インキです。
- **TOYO KING NEX®**  
植物由来原料を使用し、環境負荷に配慮した、あらゆる印刷条件で使いやすいオフセット枚葉インキです。
- **ヴァンテアンエコー®**  
植物由来原料を使用し、環境負荷に配慮した、高濃度新聞用オフセット輪転インキです。
- **FLASH DRY® SS ソフトフィールワニス**  
印刷物に「しっとりとしたソフトな触感」と「上質できめ細やかなマット感」を付与できるUV硬化型インキです。

# 東洋インキグループネットワーク

東洋インキグループは、世界約20カ国でグローバルな事業活動を展開しています。

各地域において、多様な市場ニーズに対応し、製品開発・生産・販売・技術サービスなどを行っています。



## 日本

### 【東洋インキSCホールディングス株式会社】

■ マテリアルサイエンスラボ

■ イノベーションラボ

★ ■ ポリマーデザインラボ

■ 解析技術ラボ

■ プロセスイノベーションラボ

### 【トーヨーカラー株式会社】

★ ● 富士製造所

★ ● 茂原工場

★ ● 岡山工場

★ ● 川越事業所

### 【トーヨーケム株式会社】

★ ● 川越製造所

★ ● 西神工場

★ ● 尼崎工場

### 【東洋インキ株式会社】

◆ 中部支社

◆ 関西支社

★ ● 埼玉製造所

### 【関係会社】

◆ 東洋インキ北海道株式会社

◆ 東洋インキ東北株式会社

◆ 東洋インキ中四国株式会社

◆ 東洋インキ九州株式会社

★ ● 東洋アドレ株式会社

▲ 東洋インキエンジニアリング株式会社

◆ 東洋インキグラフィックス株式会社

◆ 東洋インキグラフィックス西日本株式会社

◆ 東洋SCTレーディング株式会社

★ ● 東洋FPP株式会社

▲ 東洋ビーネット株式会社

★ ● 東洋ビジュアルソリューションズ株式会社

▲ 東洋マネジメントサービス株式会社

★ ● 東洋モートン株式会社

★ ● マツイカガク株式会社

▲ ロジコネット株式会社

● TOYO INK AMERICA, LLC (アメリカ)

◆ TOYO INK ARETS CANADA INC. (カナダ)

▲ TOYO INK INTERNATIONAL CORP. (アメリカ)

◆ TOYO INK ARETS MEXICO, S.A. de C.V. (メキシコ)

● TOYO INK MEXICO, S.A. de C.V. (メキシコ)

★ ● LioChem, INC. (アメリカ)

● 四川東洋油墨制造有限公司 (中国)

● 成都東洋油墨有限公司 (中国)

▲ 東洋インキSCホールディングス株式会社(在中国事務所) (中国)

★ ● 天津東洋油墨有限公司 (中国)

◆ 東洋インキコア株式会社 (韓国)

● 韓一TOYO株式会社 (韓国)

★ ● 三永インキ&ペイント製造株式会社 (韓国)

◆ 江蘇東洋仁欣顔料有限公司 (中国)

◆ 上海東洋油墨有限公司 (中国)

★ ● 上海東洋油墨制造有限公司 (中国)

★ ● 台湾東洋先端科技股份有限公司 (台湾)

▲ 東大立化工有限公司 (中国)

◆ 東洋油墨亞洲有限公司 (中国)

▲ 東洋油墨極東有限公司 (中国)

◆ 深圳東洋油墨有限公司 (中国)

★ ● 江門東洋油墨有限公司 (中国)

● TOYO INK BRASIL LTDA. (ブラジル)

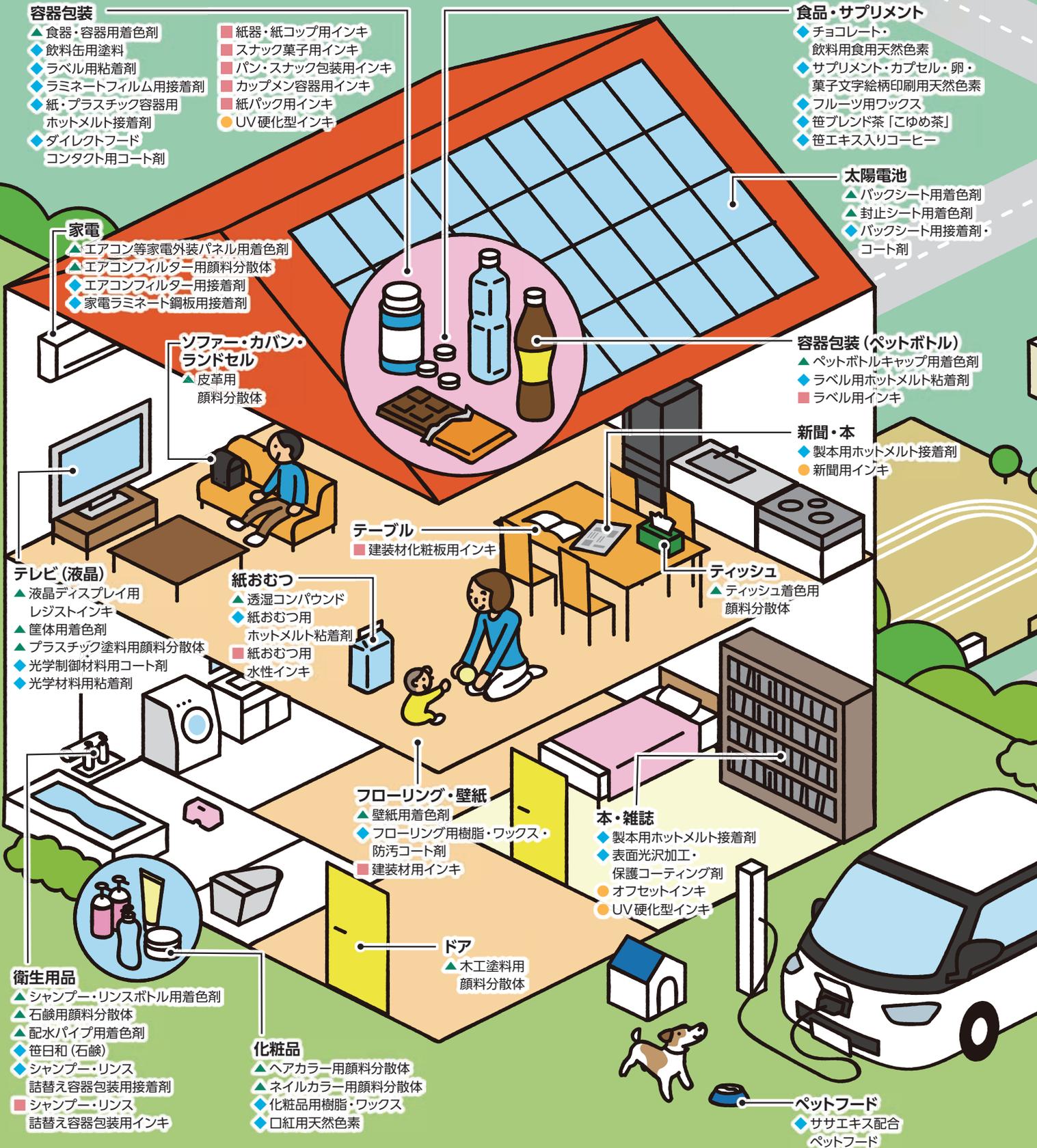
★ ● 珠海東洋色材有限公司 (中国)

# 事業と社会とのつながり

私たちが作りだすさまざまな製品は、暮らしの中にあふれています。

それは、普段何気なく使っているもの、見かけるもの、皆様のすぐそばにいつも存在しています——

東洋インキグループは、1世紀を超えて培った技術力をもとに、さらに生活者としての視点に立ったモノやサービスのあり方を見直し、皆様に喜んでいただける優れた製品を提供することで、世界中の多様な人々の暮らしを支えています。



## 容器包装

- ▲ 食器・容器用着色剤
- ◆ 飲料缶用塗料
- ◆ ラベル用粘着剤
- ◆ ラミネートフィルム用接着剤
- ◆ 紙・プラスチック容器用
- ◆ ホットメルト粘着剤
- ◆ タイレフトフード
- ◆ コンタクト用コート剤
- 紙器・紙コップ用インキ
- スナック菓子用インキ
- パン・スナック包装用インキ
- カップメン容器用インキ
- 紙パック用インキ
- UV硬化型インキ

## 食品・サプリメント

- ◆ チョコレート・
- ◆ 飲料用食用天然色素
- ◆ サプリメント・カプセル・卵・
- ◆ 菓子文字絵柄印刷用天然色素
- ◆ フルーツ用ワックス
- ◆ 笹ブレンド茶「こゆめ茶」
- ◆ 笹エキス入りコーヒー

## 太陽電池

- ▲ バックシート用着色剤
- ▲ 封止シート用着色剤
- ◆ バックシート用接着剤・
- ◆ コート剤

## 家電

- ▲ エアコン等家電外装パネル用着色剤
- ▲ エアコンフィルター用顔料分散体
- ◆ エアコンフィルター用接着剤
- ◆ 家電ラミネート鋼板用接着剤

## ソファ・カバン・ランドセル

- ▲ 皮革用
- ▲ 顔料分散体

## 容器包装 (ペットボトル)

- ▲ ペットボトルキャップ用着色剤
- ◆ ラベル用ホットメルト粘着剤
- ラベル用インキ

## 新聞・本

- ◆ 製本用ホットメルト接着剤
- 新聞用インキ

## テーブル

- 建築材化粧板用インキ

## ティッシュ

- ▲ ティッシュ着色用
- ▲ 顔料分散体

## テレビ (液晶)

- ▲ 液晶ディスプレイ用
- ▲ レジストインキ
- ▲ 筐体用着色剤
- ▲ プラスチック塗料用顔料分散体
- ◆ 光学制御材料用コート剤
- ◆ 光学材料用粘着剤

## 紙おむつ

- ▲ 透湿コンパウンド
- ◆ 紙おむつ用
- ◆ ホットメルト粘着剤
- 紙おむつ用
- 水性インキ

## フローリング・壁紙

- ▲ 壁紙用着色剤
- ◆ フローリング用樹脂・ワックス・
- ◆ 防汚コート剤
- 建築材用インキ

## 本・雑誌

- ◆ 製本用ホットメルト接着剤
- ◆ 表面光沢加工・
- ◆ 保護コーティング剤
- オフセットインキ
- UV硬化型インキ

## 衛生用品

- ▲ シャンプー・リンスボトル用着色剤
- ▲ 石鹸用顔料分散体
- ▲ 配水パイプ用着色剤
- ◆ 笹日和 (石鹸)
- ◆ シャンプー・リンス
- ◆ 詰替え容器包装用接着剤
- シャンプー・リンス
- 詰替え容器包装用インキ

## 化粧品

- ▲ ヘアカラー用顔料分散体
- ▲ ネイルカラー用顔料分散体
- ◆ 化粧品用樹脂・ワックス
- ◆ 口紅用天然色素

## ドア

- ▲ 木工塗料用
- ▲ 顔料分散体

## ペットフード

- ◆ ササエキス配合
- ◆ ペットフード

- メディカル**
- ◆ 貼付型医薬品
  - ◆ 検査チップ用テープ
  - ◆ 医療テープ用粘着剤
  - 医薬品包装用印刷インキ

**建材**

- ◆ コンクリート建築塗料用機能性樹脂
- ◆ 遮熱ウィンドウフィルム

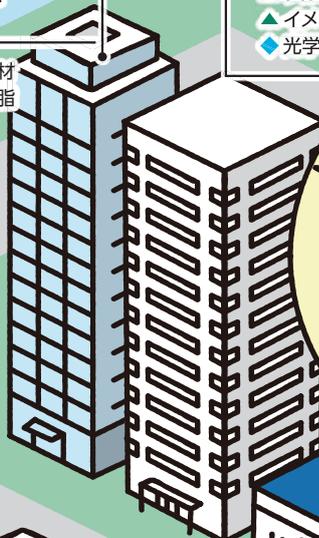
**建築塗料**

- ▲ 内・外装建築塗料用色材
- ◆ 内・外装建築塗料用樹脂

**携帯電話・スマートフォン**

- ▲ 有機EL周辺材料
- ▲ SIMカード用着色剤
- ▲ ソルダーレジストインキ用顔料分散体
- ▲ イメージセンサー用カラーレジスト
- ◆ 光学材料用粘着剤・UV接着剤

- ◆ フレキシブル基板用機能性接着シート
- ◆ 電磁波シールドシート
- ◆ 電子部品用固定テープ
- ◆ 光学制御材料用コート材
- ◆ タッチパネル表面保護用微粘着シート



- タブレットPC**
- ▲ 液晶ディスプレイ用レジストインキ
  - ◆ タッチパネル用オーバーコート材

- パソコン（液晶）**
- ▲ 液晶ディスプレイ用レジストインキ

**オフィス**

- ▲ OA機器用樹脂コンパウンド
- ▲ トナー用着色剤
- ▲ 塗工紙用顔料分散体
- ◆ トナー用定着剤
- ◆ デスクマット用防汚コート剤

**防犯カメラ**

- ▲ イメージセンサー用カラーレジスト

**看板（バス）**

- ◆ 車両マーキング用フィルム

**のぼり旗・垂れ幕**

- ▲ 捺染用顔料分散体

**道路**

- ▲ 道路塗料用顔料分散体

**農業**

- ▲ 農業用資材・フィルム用着色剤
- ◆ 農業遅効剤用ポリマー

**看板**

- ◆ 看板用マーキングフィルム
- 印刷看板用インクジェットインキ

**電線**

- ▲ 電線用着色剤

**木の柵**

- ▲ 木工塗料用顔料分散体

**Tシャツ**

- ▲ 捺染用分散体

**自動車**

- ▲ 自動車内・外装用色材
- ▲ リチウムイオン電池用機能性分散体
- ▲ イメージセンサー用カラーレジスト
- ◆ リチウムイオン電池用バインダー樹脂
- ◆ 内・外装用装飾シート
- ◆ 断熱材・防音材・遮光シート・防振材用粘着剤
- ◆ フロアマット用ホットメルト粘着剤
- ◆ 内装シート仮止め用ホットメルト粘着剤
- ◆ エンジン部品鑄造用ワックス

**飼料**

- ◆ 牛・豚・鶏飼料用ササエキス

# 社会への価値提供のために

## Scientific Innovation Chain 2027 (SIC27)

東洋インキグループは、企業と社会の持続的な成長を目指して、「時代を超えた不変の柱」である経営理念をもとに、世界的な課題やグループの強みを踏まえて経営戦略を策定しました。

そして、SIC27で示した価値提供の実現に向けて、中期経営計画「SIC-I」を始動させています。

また、重要課題に基づいたCSR活動が生み出す提供価値を、

中期経営計画のPDCAサイクルの指標とすることで、CSR活動の組織的、計画的な推進を図っています。

### メガトレンドと世界的な課題

- ・急速な都市化の進行
- ・気候変動と資源不足
- ・人口構造の変化
- ・世界の経済力のシフト
- ・テクノロジーの進歩

※PwC「5つのメガトレンドと潜在的影響」(2014年4月)



SDGs

(持続可能な開発目標)

ISO 26000

(社会的責任に関する国際規格)

### メガトレンドを踏まえた経営理念の考え方

#### 生活文化創造企業

対象を「生活者」から「生命」や「地球環境」にも広げ、社会課題の解決に能動的に取り組むことで、すべての対象がいきいきと共生する世界の実現に貢献します。

#### 4つの満足度の向上

すべてのステークホルダーの持続可能性という長期的な視点で、CS(お客様満足)、ES(社員満足)、SS(社会満足)、ShS(株主様満足)の4つの満足度向上に努めます。

#### サステナブルグロース (持続的な成長)

価値革新の追求や、リスクマネジメントの高度化も含めた4つの満足度の向上を通じて、自らの持続的な成長を可能にする企業体質に変革します。

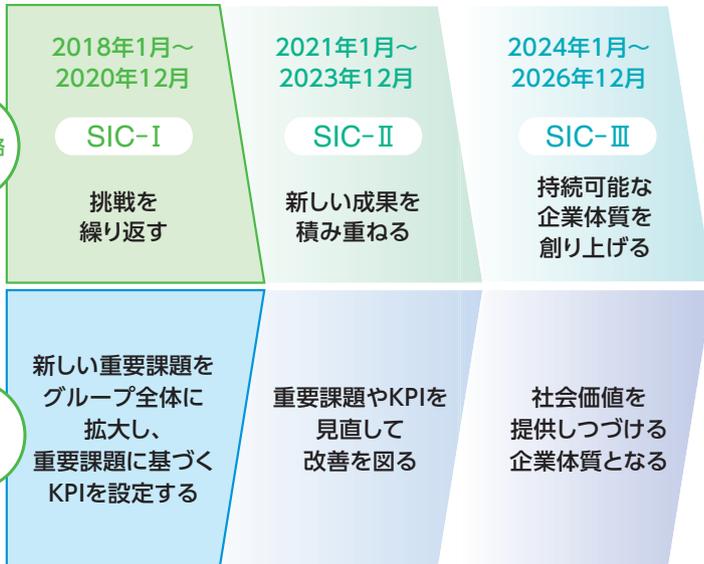
### 東洋インキグループの強み

- ▶ 創業(1896年)から変わらない社会課題解決に向けた姿勢
- ▶ 素材(樹脂・顔料)から製品までの一貫した生産・販売体制
- ▶ 色材、ポリマーの設計・合成や、配合、分散、塗加工などに関する高い技術力
- ▶ 海外も含めた8,000名を超える多様性に富む人材
- ▶ 国内外20カ国以上での生産・販売ネットワーク
- ▶ 長年蓄積されたお客様との信頼関係

経営戦略とCSR活動

長期構想

Scientific Innovation Chain<sup>※</sup> 2027



※Scientific Innovation Chain: すべての企業活動において、革新的に発想し、科学的に実行する。その連鎖によって、生活者・生命・地球環境の持続可能性に貢献し、自社の持続成長可能性を高める。

経営戦略

CSR

社会への  
価値提供

東洋インキグループの提供価値

For a  
Vibrant  
World

すべての生活者・生命・  
地球環境がいきいきと  
共存・共生する世界の  
実現に貢献します。

東洋インキグループのCSR

重要課題 1

重要課題 2

重要課題 3

重要課題 4

重要課題 5

中期経営計画「SIC-I」

SIC-Iの基本方針

SIC-Iをさらなる100年レンジでの持続的成長の礎を創り上げる期間と位置付け、変革のための施策を立て続けに打つ。

1. 成長に向けた既存事業の変革と新事業への挑戦
2. 持続可能性向上に向けたモノづくり革新の推進
3. 経営基盤の刷新

[最終年度目標]

- 売上高：3,500億円
- 営業利益：280億円
- 営業利益率：8.0%
- 海外売上高比率：50%
- ROE：7.2%

# CSRの重要課題とCSR活動の進捗

東洋インキグループは、ステークホルダーとのダイアログを重ねながら、CSRの重要課題の策定を行い、5つの重要課題と目指す姿、19の実行項目を2017年度に定めました。また、CSRの重要課題と「持続可能な開発目標(SDGs)」の17の目標との関連性も明確にしました。

## CSRの重要課題・実行項目とCSR活動の進捗

重要課題	目指す姿	SDGsの関連目標	実行項目
<p><b>重要課題 1</b></p> <p>お客様の期待を超える価値を提供し、社会に貢献する</p> <p>→P.15～</p>	<p>お客様の期待を超える独創的な製品・サービスを通じて、社会のイノベーションや課題解決に資する価値を提供している。これを通じて広くステークホルダーから信頼を得ると同時に、持続可能な社会づくりに貢献している。</p>	   	<ol style="list-style-type: none"> <li>「Life」「Communication」「Sustainability」の方向性での生活文化創造</li> <li>安全な製品・サービスの提供を通じたお客様の安心の実現</li> <li>圧倒的に高い品質の保証</li> <li>高いお客様満足度の達成</li> </ol>
<p><b>重要課題 2</b></p> <p>革新的技術を通じて環境と共生する</p> <p>→P.21～</p>	<p>革新的な環境技術により、製品・サービスの両面で社会のリーディングカンパニーになっている。また、川上から川下に及ぶ事業全体での取り組みを通じて、社会と環境との調和や社会の持続可能性向上に大きく貢献している。</p>	     	<ol style="list-style-type: none"> <li>環境負荷を低減する革新的な技術・製品・サービスの開発と普及</li> <li>気候変動問題の解決や対応に向けた取り組み</li> <li>化学物質の適切な管理</li> <li>環境マネジメントの堅実な推進</li> </ol>
<p><b>重要課題 3</b></p> <p>サプライチェーンと共存共栄を図り、ステークホルダーの信頼に応える</p> <p>→P.23～</p>	<p>対等な立場からサプライチェーンを尊重し、互いを刺激しあうことを通じて、共存共栄に向けた確固たる信頼関係が築かれている。また、こうした関係をベースとして、互いに協調しながらさらなる挑戦を続けている。</p>	 	<ol style="list-style-type: none"> <li>協働を通じたサプライチェーンとの共存共栄</li> <li>あらゆるステークホルダーの人権尊重</li> </ol>
<p><b>重要課題 4</b></p> <p>社員を大切に、幸せや働きがいを追求する</p> <p>→P.25～</p>	<p>それぞれの社員の人格や多様性が尊重され、社員が自ら働きがいや自己実現を追求する風土が確立している。また、風通しがよく家族的な職場環境が、国内外でイノベーションを創出するベースとなっている。</p>	  	<ol style="list-style-type: none"> <li>社員の満足につながる労働安全衛生の徹底と健康経営の推進</li> <li>組織の活性化に向けたダイバーシティ推進</li> <li>グローバルな視野・能力を持つ人材の育成</li> </ol>
<p><b>重要課題 5</b></p> <p>信頼を支える堅実な企業基盤を築く</p> <p>→P.27～</p>	<p>コンプライアンスやコミュニケーションなどの実践を通じて、ステークホルダーの信頼を支える堅実な企業基盤が確立している。また、この基盤が、歴史を継承しながら200周年まで会社が存続するための確かな礎となっている。</p>	 	<ol style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンスの徹底</li> <li>腐敗・汚職の撲滅</li> <li>確実なリスクマネジメント、災害対応の推進</li> <li>適時・適切かつ積極的な情報開示とステークホルダー・コミュニケーションの強化</li> <li>事業を通じた地域社会発展への貢献</li> <li>地域が抱える課題解決への貢献</li> </ol>

2018年度から、グループ内への展開・浸透を図るとともに、実行項目ごとのKPIの検討を行い、2018年度の実績をもとに、重要課題ごとのKPIと2020年度目標を明確にしました。今後は、KPIや目標のグループ内への展開と自己評価による見直しを行い、CSR活動を推進していきます。

2018年度の実績	KPI	SIC-Iの目標(2018～2020年度)
<ul style="list-style-type: none"> <li>価値創造に向けた新たな製品・サービスの創出(行動検知システム「Fichvita®」)、「ゼロアグリ」を活用したボックス式果樹栽培、白内障対応カラーマネジメントソリューションなど)</li> <li>ISO 9001の2015年版への更新完了</li> <li>プライベートショウ「TIG EXPO 2018」を開催し、新製品・新技術を紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>価値創造に向けた新たな製品・サービスの創出</li> <li>ISO 9001に沿った品質マネジメントシステムの運用</li> <li>プライベートショウの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新製品の拡大(色材・機能材：50億円、ポリマー・塗加工：40億円、パッケージ、印刷・情報：140億円)</li> <li>品質マネジメントシステムの構築率100%</li> <li>プライベートショウの継続開催</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>環境調和型製品売上高構成比60.4%(前年度比1.4ポイント増)</li> <li>環境調和効率指標8.9(前年度比0.2ポイント増)</li> <li>CO<sub>2</sub>排出量(国内) 89,777t(前年度比0.6%減)</li> <li>エネルギー原単位(海外) 160.8ℓ/t(前年度比1.9%減)</li> <li>ISO 14001認証取得事業所での2015年版への更新完了</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境調和型製品売上高構成比</li> <li>環境調和効率指標</li> <li>CO<sub>2</sub>排出量(国内、全事業所)</li> <li>エネルギー原単位(海外、ISO 14001認証取得事業所)</li> <li>ISO 14001の認証取得率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境調和型製品売上高構成比62%(2017年度比3ポイント増)</li> <li>環境調和効率指標9.2(2017年度比0.5ポイント増)</li> <li>CO<sub>2</sub>排出量(国内) 88,000t(2017年度比4%減)</li> <li>エネルギー原単位(海外) 154ℓ/t(2017年度比6%減)</li> <li>海外生産拠点でのISO 14001の認証取得率80%(2017年度比5ポイント増)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>中国地区、韓国における調達基本方針の周知</li> <li>海外赴任前研修における人権教育受講者24名(受講率91%)</li> <li>「グローバル人事ネットワークWEBサイト」(日本語、英語)の開設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調達先選定基準に基づくサプライヤーの評価実施率</li> <li>海外関係会社への調達基本方針の浸透率</li> <li>海外赴任前研修における人権教育受講率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調達先選定基準に基づく国内のサプライヤーの評価実施率100%</li> <li>海外関係会社への調達基本方針の浸透の推進</li> <li>海外赴任前研修における人権教育受講率100%</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>健康経営優良法人2019「ホワイト500」、女性活躍「えるぼし」認定の取得</li> <li>重大事故の発生ゼロ</li> <li>国内の休業災害度数率0.720、強度率0.007、事故発生率1.9</li> <li>国内での新卒女性採用率35%</li> <li>東洋インキ専門学校での研修受講者数年間延べ1,174名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ホワイト500」、「えるぼし」の認定</li> <li>重大事故の発生件数</li> <li>多様な人材の雇用促進(女性、障がい者、日本国籍以外の雇用)</li> <li>東洋インキ専門学校による研修の実施率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ホワイト500」、「えるぼし」認定の継続</li> <li>重大事故の発生ゼロ</li> <li>国内での新卒女性採用率30%</li> <li>東洋インキ専門学校での研修受講者数年間延べ1,500名</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンスリーダー会議、コンプライアンス拠点ミーティングの実施</li> <li>独禁法講習会、下請法講習会、技術契約講習会の実施</li> <li>贈収賄防止に関する講習会の実施(ベトナム、インドネシア)</li> <li>自然災害への適切な対応(大阪北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震など)</li> <li>リスクアセスメントの実施(国内100%、海外60%)</li> <li>国内各拠点の災害対応マニュアル策定の推進</li> <li>リスクコミュニケーション活動の継続(川越製造所)</li> <li>中学生の社会体験授業、外務省や経産省の研修受け入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス拠点ミーティングの実施と出席者数</li> <li>国内での贈収賄防止に関する講習会の出席者数</li> <li>海外の関係会社での贈収賄防止に関する講習会の実施回数</li> <li>国内外のリスクアセスメントの実施率</li> <li>国内各拠点の災害対応マニュアル策定率</li> <li>地域とのコミュニケーション活動の件数</li> <li>地域での教育・文化活動の件数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大コンプライアンス違反の発生ゼロ</li> <li>コンプライアンス拠点ミーティング出席者数の増加</li> <li>各種講習会(独禁法、下請法、贈収賄防止など)の出席者数の増加</li> <li>腐敗指数の高い国に所在する関係会社での贈収賄防止に関する講習会の実施</li> <li>リスクアセスメント実施率100%</li> <li>国内の災害対応マニュアル策定率100%</li> <li>地域とのコミュニケーション活動の継続・拡大</li> <li>地域での教育・文化活動の継続・拡大</li> </ul>

# お客様の期待を超える価値を提供し、社会に貢献する



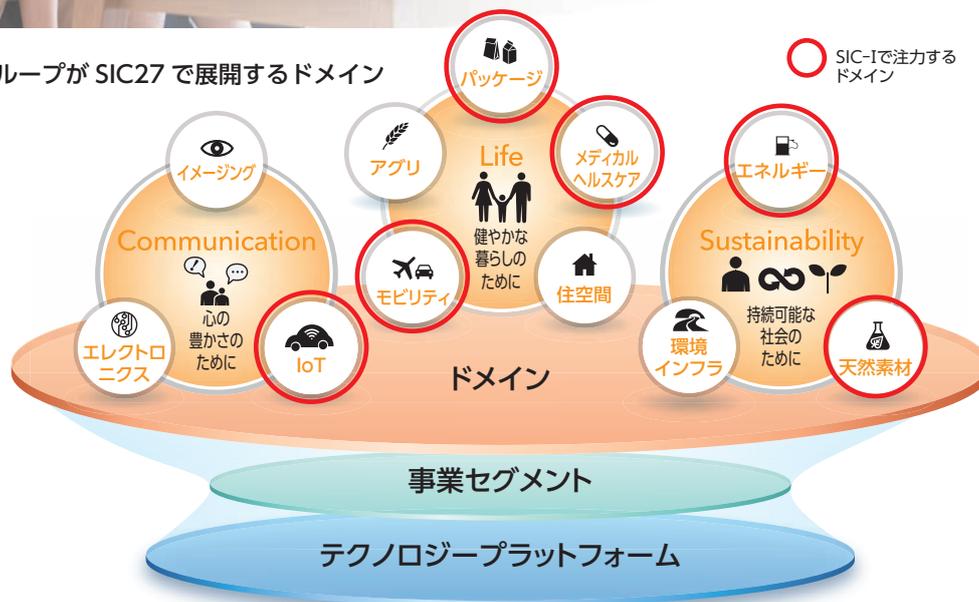
## ●基本的な考え方と方針

現在の企業には、これまでのビジネスの進め方に加え、ビジネスを通じてお客様や社会に新たな価値を生み出し、社会課題の解決と持続的な企業価値の向上を図ることが求められています。

東洋インキグループは、「Life」「Communication」「Sustainability」を経営理念に掲げる生活文化創造の方向性とし、これに基づく11のドメインでの事業展開を、それぞれの事業セグメントにおいて推進することで社会課題の解決に貢献します。また、幅広いドメインへの事業展開を可能にする技術基盤「テクノロジープラットフォーム」を、より一層深く、広く、新しく洗練させていきます。

さらに、製品情報の提供と品質管理を徹底し、さまざまなコミュニケーション活動を通じて、お客様に安全・安心を提供します。

東洋インキグループが SIC27 で展開するドメイン



## ●重要課題の実行項目と関連するSDGsの目標・ターゲット

実行項目	関連する SDGs の目標・ターゲット (抜粋)
「Life」「Communication」「Sustainability」の方向性での生活文化創造	3.4 貼付薬や新たなメディカル・ヘルスケアビジネスにより、疾病の予防・治療を通じて生活者の保健、福祉を促進します。(Life) 7.2 太陽電池の性能の向上に寄与する部材の開発・販売により、再生可能エネルギーの拡大に寄与します。(Sustainability)
安全な製品・サービスの提供を通じたお客様の安心の実現	9.4 環境に配慮した技術の拡大とソリューションの提案を通じて、持続可能性を向上させます。(Sustainability)
圧倒的に高い品質の保証	12.3 さまざまなパッケージ関連素材の提供により、サプライチェーンにおけるフードロスを減少させます。(Life)
高いお客様満足度の達成	12.4 製品のライフサイクルを通じて化学物質管理を行い、品質管理を徹底することで生活者の健康や環境への影響を最小限に留めます。

※関連するSDGsの目標・ターゲットの詳細については、「CSR活動報告・データ2019」に記載しています。

# 事業ドメインにおける価値提供

健やかな暮らし、心の豊かさ、持続可能な社会の実現といった社会・生活者課題に対して、どのように貢献し、価値提供していくのか、その方向性を示す羅針盤が「ドメイン」です。

中期経営計画「SIC-I」では、パッケージ、メディカル・ヘルスケア、モビリティ、IoT (Internet of Things)、エネルギー、天然素材の6つのドメインでの事業展開を積極的に推進しており、すでに多くの製品群を開発・上市しています。

## Communication

(心の豊かさ)

IoT



行動検知システム「Fichvita®」

パッケージ



グラビアインキ  
フレキシオンキ  
ラミネート接着剤



プラスチック着色剤  
金属用コーティング剤  
ホットメルト

メディカル・ヘルスケア



貼付型医薬品  
医療テープ用粘着剤  
サニタリー関連製品

モビリティ



自動車用塗料  
内装・外装用装飾シート  
粘着剤  
二次電池用材料

## Life

(健やかな暮らし)

コア技術

色材設計  
樹脂設計・制御  
分散

要素技術

塗加工・塗膜形成  
炭素材料設計  
天然物抽出  
システム設計・制御

エネルギー



太陽電池関連材料  
熱伝導粘着シート

天然素材



食用色素・可食性インキ  
クマザサ関連製品

## Sustainability

(持続可能な社会の実現)

# パッケージにおける価値提供

パッケージは、食品や医薬品の包装など、私たちの毎日の暮らしに欠くことができません。東洋インキグループは、ドメインの一つであるパッケージ分野で「健やかな暮らし」の実現のための取り組みを進めています。

## 社会課題

毎日の暮らしに身近なパッケージには、内容物の品質保持や製品の長寿命化のための「保護の機能」、効率的な輸送のための「利便性の機能」、内容物の製品情報を適切に表示する「情報伝達の機能」など、さまざまな役割があります。内容物が食品や飲料の場合、品質保持期限の延長などによる食品廃棄(フードロス)の発生抑制の効果もあります。

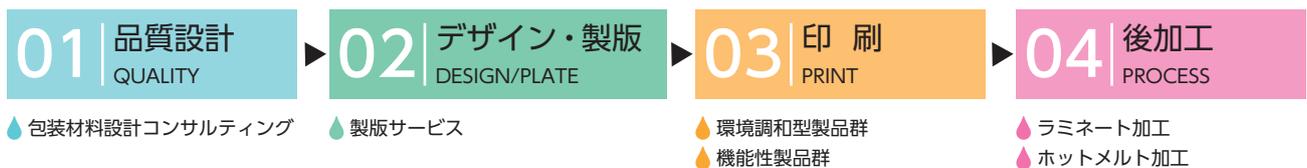
これからのパッケージには、利便性と同時に、環境問題や資源の有効活用などの課題の解決が求められています。

## 東洋インキグループの取り組み

東洋インキグループは、パッケージの品質設計、デザイン・製版、印刷、後加工の各工程において、さまざまな製品・サービスにより、環境対応、機能性、意匠性に関連した「パッケージトータルソリューション」\*を提供することで、パッケージにおける社会課題の解決に向けた新たな価値を提供しています。

\*<https://www.toyoink.jp/ja/solution/package/>

## パッケージトータルソリューション



### 環境対応ソリューション

#### 地球環境にやさしいパッケージ

LCA(ライフサイクルアセスメント)評価を行い、CO<sub>2</sub>排出量を指標として水性、無溶剤、バイオマス製品の利用により、パッケージ全体でのCO<sub>2</sub>削減を提案しています。

#### 【具体的なソリューション】

##### 水性化・無溶剤化

- 水性グラビアインキ
- 水性フレキソインキ
- 水性ドライラミネート接着剤
- 無溶剤ラミネート接着剤

##### バイオマス

- バイオマスグラビアインキ
- バイオマスフレキソインキ
- バイオマスラミネート接着剤
- バイオマスホットメルト接着剤

##### 水性印刷に適した製版方法

- 水性グラビア印刷用浅版シリンダー
- 水性フレキソ印刷用CTP版

### 機能ソリューション

#### 便利で人にやさしく、安全・安心なパッケージ

印刷技術によって、パッケージにさまざまな機能を付与することができます。

#### 【具体的なソリューション】

##### UVカット機能

容器の中が見える状態で紫外線をカットし、中身を保護します。

##### 印字が消えない機能

賞味期限の表記などが消えないようになります。

##### 静電気が発生しにくい機能

店頭に並べられたパッケージに埃がつかないように、静電気の帯電を抑制します。

##### 汚れない機能

店頭で多くの人が触れるパッケージが汚れないように保護します。

### 意匠ソリューション

#### 視覚・触覚などに訴えるパッケージ

きれいな印刷は商品価値を高めたり、目立たせたりします。より高い価値表現を目指して、意匠性の高い素材を適切な製版・印刷方法で表現します。

#### 【具体的なソリューション】

##### キラッと

樹脂材料や機能性ワニスにより、光輝感を実現します。

##### ザラッと

製版技術や特殊な凹凸感を表現するインキ、機能性ワニスにより(疑似)エンボス効果を実現します。

##### ツルッと

盛上げワニスにより、印刷物に質感や立体感を付与します。

##### テカッと

機能性ワニスにより、光輝感を実現します。

##### シットリ

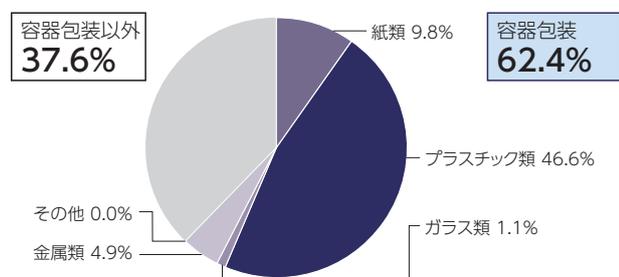
表面制御技術により、高級な風合い、手触り感を実現します。

# パッケージのさらなる社会課題解決に向けて

東洋インキグループは、パッケージ関連材料を通じて「持続可能な社会」の実現に取り組むとともに、パッケージの抱えるさまざまな環境問題の解決に取り組んでいます。

## 社会課題

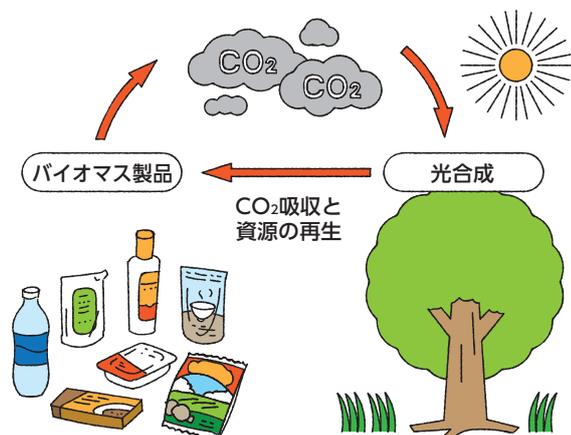
パッケージは、内容物が使用・消費された後には不要なものとなり、ごみとして廃棄されます。環境省が毎年実施している家庭ごみの調査では、容量比で62.4%（重量比22.7%）がパッケージ由来で、そのうちの75%をプラスチック類が占めています。プラスチックとの賢い付き合い方を進める「プラスチック・スマート」に向けた取り組みが、素材メーカーにも求められています。



環境省「容器包装廃棄物の使用・排出実態調査(平成30年度)」

## バイオマスパッケージへの取り組み

バイオマスには、「カーボンニュートラル」という特徴があり、焼却せざるを得ないプラスチックへの利用拡大が求められています。東洋インキグループは、オフセット、グラビア、フレキシソの印刷インキに加え、包装関連資材であるラミネート接着剤、ホットメルト接着剤においてもバイオマス製品を開発し、パッケージの環境負荷低減に向けたソリューションの提案を行っています。



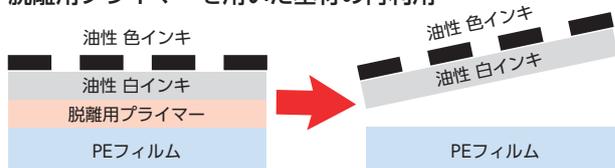
カーボンニュートラル：バイオマスは、再生可能な生物由来の有機資源のことです。燃焼するとCO<sub>2</sub>が発生しますが、植物が成長する際にCO<sub>2</sub>を吸収するため、全体で見るとCO<sub>2</sub>の量は増加しないという特性があります。

## 省プラスチック・脱プラスチックに向けた取り組み

プラスチックのパッケージの多くは、複数の素材を貼り合わせて構成されていますが、欧州や米国では「単一素材化」の検討が始まっています。東洋インキグループでは、パッケージの表刷り時に脱離用プライマーを用い、リサイクル時に表刷りインキを脱離させることで、基材の再利用を提案しています。

また、再生可能な紙などのプラスチック代替素材への切り替えに対応して、食品包装の内面にコーティングして耐油性、耐水性を付与するコーティング剤「FILLHARMO<sup>®</sup>」(東洋アドレ(株))をはじめ、プラスチックフィルムの持つ強みを紙に付与し、紙の利点を生かしたパッケージの利用拡大に向けて、さまざまな製品群の拡大を図っています。

### 脱離用プライマーを用いた基材の再利用



## 「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス」への参加

プラスチックごみによる海の汚染が世界的に問題になっており、SDGsでも海洋ごみの削減がターゲットの一つに掲げられています。パッケージなどのプラスチックごみが紫外線や波で劣化して細かく砕けた「マイクロプラスチック」が、生態系に影響を及ぼすと懸念されています。

2019年1月、経済産業省により、海洋プラスチックごみ問題の解決に向け、官民連携でイノベーションを加速するための組織「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス」が設立されました。東洋インキグループとして、東洋インキSCホールディングス(株)が参加し、最新技術動向の把握や情報共有、企業間連携などの活動を行っています。

# デジタルトランスフォーメーションに向けた価値創造 ～行動検知システム「Fichvita®」の開発(トーヨーケム(株))～

成長著しいIoT市場において急速に増加する「センサー」に着目し、ケミカルを軸とした「モノづくり」に加え、新しいテクノロジーを取り入れた「情報・システム」までを提供するセンサー関連ビジネスの開発に挑戦しています。

## 社会課題

私たちの生活の中には「人の動きを検知する」システムとして監視カメラや赤外線を用いたさまざまなセンサーが使用され、そこから得られるビッグデータの活用によって、生活が便利になっています。その一方で、情報セキュリティやプライバシーの観点でのリスクをはらんでいます。

中でも光学式の監視カメラは、個々の生活リズムや行動パターンが他者に知られてしまうことによって、カメラの存在を意識せざるを得ない状況が増えており、私たちの自然な生活行動が無意識のうちに制限されてしまう可能性があります。

### 既存のセンサーシステムの課題

- ・居住空間や更衣室、トイレ、浴室のような場所には設置できないといったプライバシーや個人情報の問題
- ・光学的な明るさの制限や死角の存在
- ・生活者にとって「被視感」があることによる心理的ストレスや自然な生活が妨げられる可能性
- ・データ容量や処理速度などの物理的な問題

## 東洋インキグループの取り組み

「Fichvita®」は、トーヨーケム(株)が長年培ってきたポリマー素材と、新たに構築した回路設計技術との組み合わせにより開発した非光学式行動検知システムです。「Human interface for a vibrant world」のビジョンを掲げ、生活環境に溶け込んだインターフェースとして社会課題を解決し、人々をより安全にデータ社会と結びつけることで、新しい生活文化の創造を目指しています。

### 「Fichvita®」の特徴

- ・**高い匿名性**：非光学式による検知システムのため、個人情報に触れることなく、人の動きを繊細に検知します。
- ・**優れた検知安定性**：暗い場所や日差し、照明の変化に左右されず、安定して人や物体を検知できます。
- ・**「被視感」からの解放**：床や壁、机や椅子などの生活空間に埋め込んで実装するセンサーのため、「見られている」という心理的な負荷がありません。
- ・**死角がない**：床から人や物体を検知するフロア型は、死角が一切なく、光学式システムの欠損情報を補完することができます。

## 「Fichvita®」が提供するソリューション

- 入力デバイスとしての利用**：床や壁に設置した入力デバイスとしての利用。
- 歩行追跡**：人の足跡を連続的に感知し、特定人物の歩行を追跡。

### <利用シーンの例>

- ・入場者のカウント(イベント入場口など)
- ・顧客動線の分析(商業施設内など)
- ・VRコンテンツへのポジションデータの実装

- 姿勢の検知**：広い面積を同時に検知し、立つ、座る、寝るなどの姿勢の変化を検出。

### <利用シーンの例>

- ・トイレやロッカールームなどカメラが置けない場所やリビングなど高い匿名性が求められる場所での安全管理
- ・病院や施設などでの患者や高齢者の見守り
- ・工場作業者の安全管理

- リアルタイムヒートマップ**：ヒートマップ分析により、通行の動線、密度、移動方向、待合・滞在時間、渋滞時間などの情報をリアルタイムに検出。

- モノ陳列状況・在庫状況把握**：商品棚の陳列状況や在庫状況をリアルタイムに把握し、また、その商品に人が触れたかどうかを検知。



2018年7月から、「リトルプラネット ららぽーと新三郷」において、「Fichvita®」を搭載した新型アトラクション「ぐらぐらデジタル紙相撲『PAPER RIKISHI』」を開始しました。

また、2019年2月には、スタートアップ(起業)とテクノロジーの祭典「Slush Tokyo 2019」に出展し、これに先駆けてブランドサイト「fichvita.com<sup>\*</sup>」をオープンしました。

<sup>\*</sup><https://fichvita.com>

# SDGsの発信と事業を通じた貢献を目指して

～ウェブサイト「TOYO INK 1050+」～

<https://www.toyoink1050plus.com/>

東洋インキ(株)は、独自のウェブサイト「TOYO INK 1050+」を運営しています。草間彌生氏、蜷川実花氏など著名なクリエイターへのインタビューや、東洋インキ(株)の技術、実際の導入事例などを紹介し、「イメージカラー検索」や「仕事で使える色彩学」など、色に関する仕事に携わる人にとって役立つコンテンツを提供してきました。

2018年7月、このサイトを通じてSDGsや製品の持続可能性への貢献について分かりやすく示すことで、印刷の分野における気づきや行動のきっかけになることを目的に、「TOYO INK 1050+」をリニューアル。新たにプランナーや企画職など、環境戦略に関わりのある方を対象に加え、『「COLOR」と「SUSTAINABILITY」をテーマとしたソリューションサイト』として公開しました。

新たに設けた「SUSTAINABILITY」のサイトでは、「SUSTAINABILITY 01」で「なぜ世界は持続可能な社会を目指すのか？」を考えるため、地球環境の現状や悪化している要因などを紹介しています。

また、「SUSTAINABILITY 02」では、SDGsの内容を各目標に関連する「世界の現状」のイラストとともに説明しています。

さらに、「SUSTAINABILITY 03」では、持続可能な社会の実現に貢献する環境調和型インキをバイオマスインキ、Non-VOCインキ、UV硬化型インキ、EB硬化型インキ、水性インキ、インクジェットインキに分けて紹介し、SDGs目標との関連性も示しています。

## SUSTAINABILITY 01



<https://www.toyoink1050plus.com/sustainability/about/>

## SUSTAINABILITY 02



<https://www.toyoink1050plus.com/sustainability/sdgs/>

## SUSTAINABILITY 03



<https://www.toyoink1050plus.com/sustainability/environment/>

## 「エコマークアワード2018」優秀賞を受賞

「エコマークアワード」は、公益財団法人 日本環境協会が2010年に創設した表彰制度で、環境配慮商品の普及に関する優れた事例を広く公表するとともに、エコマーク商品のより一層の普及拡大を通じて、持続可能な社会の実現に寄与することを目的としています。エコマークを通じて「消費者の環境を意識した商品選択、企業の環境改善努力による、持続可能な社会の形成」に大きく寄与する取り組みをした企業、団体などが表彰されています。

エコマーク認定商品など環境調和型インキの普及・浸透による環境負荷低減に加え、「TOYO INK 1050+」によるSDGsの発信など、デザイナー・クリエイターに向けた環境コミュニケーションの独自性が評価され、東洋インキ(株)／東洋インキグループは、「エコマークアワード2018」の優秀賞を受賞しました。



「エコマークアワード2018」表彰式

# 革新的技術を通じて 環境と共生する



## ● 基本的な考え方と方針

事業活動が地球の資源に依存していることから、気候変動をはじめとする環境問題への対策はモノづくり企業の必須課題です。東洋インキグループは、長期構想SIC27において「モノづくりでの環境負荷低減」「持続可能な社会を実現させる製品・サービスの提供」「自然・地域との共生」の3つの方向性で環境問題に取り組んでいます。温室効果ガスについては、パリ協定の日本の削減目標を考慮し、2026年度の国内のCO<sub>2</sub>排出量78,600t(2013年度比-21%)を目標にしています。

また、革新的な環境技術により製品・サービスの両面で持続可能な社会構築をリードする企業を目指しています。ステークホルダーの皆様と連携して、気候変動対策に取り組み、環境負荷低減に資する環境マネジメントシステムの構築・維持に努めることで、環境との調和ができる持続可能な社会づくりに貢献していきます。

## ● 重要課題の実行項目と関連するSDGsの目標・ターゲット

実行項目	関連するSDGsの目標・ターゲット (抜粋)
環境負荷を低減する革新的な技術・製品・サービスの開発と普及	3.9 有害化学物質の管理や土壌、地下水汚染への対策を行い、生活者の健康への影響を低減させます。
気候変動問題の解決や対応に向けた取り組み	6.3 化学物質の排出削減、水の再利用、適切な水処理により水質の改善に寄与します。 7.2 太陽光発電施設などの導入により、使用するエネルギーにおける再生可能エネルギーの割合を拡大します。
化学物質の適切な管理	12.2 バイオマス原料を使用した製品開発を推進し、天然資源の有効利用を図ります。
環境マネジメントの堅実な推進	13.1 省エネ活動の継続、省エネ投資、生産革新などによりCO <sub>2</sub> 排出量を削減し、気候変動の緩和を図ります。 15.1 社有林や河川の生態系調査を継続し、事業活動の陸域生態系と内陸淡水生態系への影響の確認と保全活動を推進します。

※関連するSDGsの目標・ターゲットの詳細については、「CSR活動報告・データ2019」に記載しています。

### 推進体制

CSR統括委員会の中の、環境担当の取締役をトップとする環境安全部において、環境目標や年度目標に基づく環境マネジメントを推進し、活動とその成果などについては、全社会議である「CSR会議」で論議しています。

また、東洋インキSCホールディングス(株)生産・物流センターのリスクマネジメント推進部が、専任組織としてグループ全体の環境安全、化学物質管理、貿易管理を統括し、同センターの企画室が環境投資を管理しています。グループ会社では、生産拠点を中心に「ISO 14001」の認証取得を進めており、ISO 14001による環境マネジメントシステムを構築しています。

※推進体制の詳細は、「CSR活動報告・データ2019」に記載しています。

### マネジメントからのメッセージ

東洋インキグループは、温室効果ガス排出量の開示要求など新たな潮流への対応も踏まえ、気候変動対策が特に重要であると考えています。

Scope3の算定結果からも、自社の上流、下流のサプライチェーンにおける温室効果ガスの削減が重要であり、太陽電池や二次電池用材料など環境負荷を低減する製品開発を継続し、社会全体の温室効果ガス削減に貢献していきます。また、モノづくり企業として、事業活動におけるより一層のCO<sub>2</sub>排出量の削減を推進します。



常務取締役  
(環境担当)

中野和人

## 再生可能エネルギーへの取り組み

東洋インキグループは、太陽電池材料の提供を通じて太陽電池の性能向上に寄与するとともに、発電した電気を貯めることで需要との時間差をコントロールする二次電池の材料も提供しています。また、国内外で太陽光発電設備を導入するとともに、コージェネレーションシステムや廃溶剤を燃料の一部に利用する副生液ボイラーにより、CO<sub>2</sub>排出量の削減を行っています。

### 再生可能エネルギーに関する技術開発

#### ●太陽電池材料

トーヨーケム(株)のバックシート用高耐候コート剤「ダイナレオ<sup>®</sup> PRC」は、環境にやさしい非フッ素系で高い耐候性を実現し、独自の技術で封止材(EVA)との接着性を飛躍的に向上させることで、太陽電池パネルの耐久性や発電効率の向上に貢献しています。

#### ●二次電池(リチウムイオン電池)材料

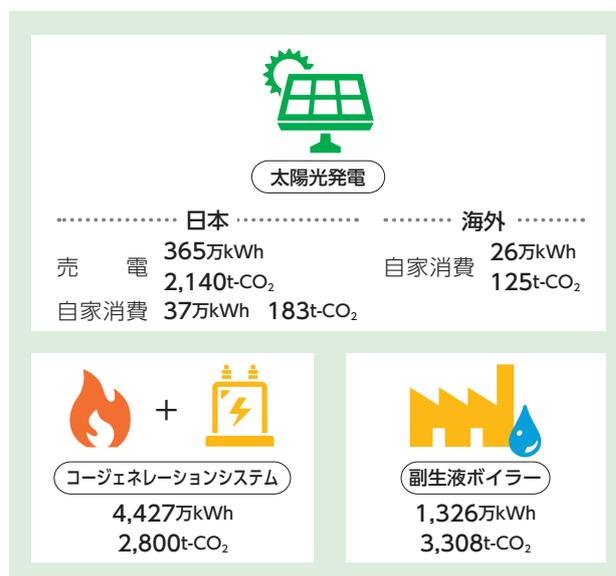
トーヨーカラー(株)の「リオアキュム<sup>®</sup> ワンショットワニス<sup>®</sup>」は、カーボン粒子などの材料を最適な状態に分散・混合したリチウムイオン電池電極用の機能性分散体です。カーボン粒子の凝集が少なく均質な電極膜を形成することができ、高品位で安定した電池電極の製造が可能で、製造工程の大幅な効率化にも寄与します。

#### ●バイオ燃料電池

微生物の代謝を活用するバイオ燃料電池は、廃水に含まれる有機物からの電気エネルギー回収(発電)と有機物の分解による水浄化を同時に行うことが可能で、次世代型の環境調和水浄化システムとして注目を集めています。

す。東洋インキSCホールディングス(株)は、高価な白金に代わる炭素材料触媒インキを開発し、バイオ燃料電池の実用化に向けた電極部材を提案しています。

#### 再生可能エネルギーの導入状況(2018年度)



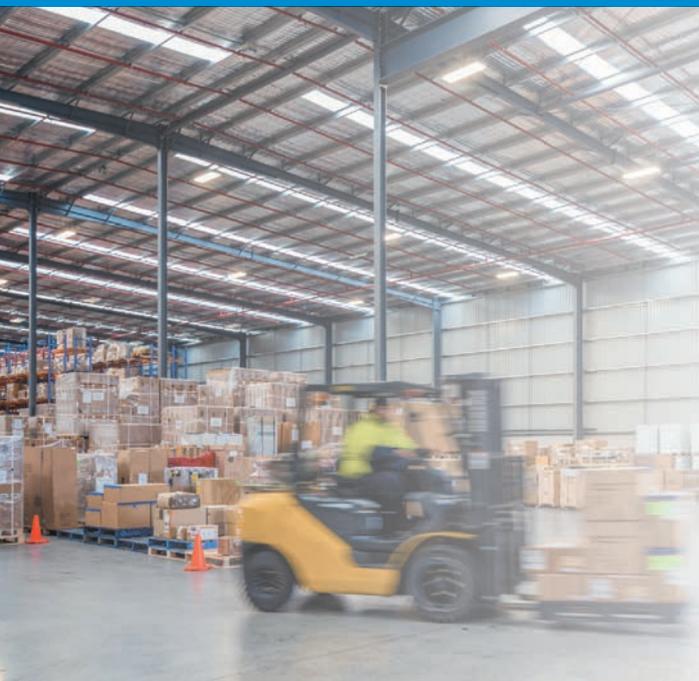
## 気候変動リスクと機会への対応

2017年、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)による提言が公開され、気候変動の自社事業への財務的影響を情報開示することが投資家から求められています。東洋インキグループは、気候変動により自社が直面するリスクと、経営資源を活用できる機会を認識し、対応を進めています。

リスク	対応
環境税、排出権取引など各国・地域での制度・規制の順守に加え、政策や法規制の新設や強化が今後も進む。	省エネ活動に加え、ボイラーなどの高効率機器への転換、太陽光発電設備の導入などを進めており、コスト負担の軽減や効率化を図っている。
洪水や海水面の上昇により、低地に立地している工場などが操業不能になる。	「アキダクト(AQUEDUCT)」を用いて水リスクを評価するとともに、洪水リスクの高い事業所に対して、リスク低減を図っている。
機会	対応
省エネや環境負荷低減の推進、新興国での環境意識の高まりなどにより、環境に配慮した製品の市場が拡大する。	製品のライフサイクルの各段階に基準を設け、一定の条件を満たした製品を「環境調和型製品」として登録し、拡販している。
温暖化による気温の上昇を緩和するため、遮熱、断熱のための製品の需要が増加する。	遮熱塗料、断熱シートなどの製品の開発・販売により、住宅、ビル、自動車などの遮熱、断熱に用いられる当該製品の売上高の増加が期待される。

\*気候変動リスクと機会への対応の詳細については、「CSR活動報告・データ2019」に記載しています。

# サプライチェーンと共存共栄を図り、ステークホルダーの信頼に応える



## ● 基本的な考え方と方針

東洋インキグループは世界約20カ国に70を超えるグループ会社を抱え、グローバルにビジネスを展開しています。さらに、事業のグローバル化により、サプライチェーンも拡大し複雑化しています。

OECD多国籍企業行動指針、カリフォルニア州サプライチェーン透明法、英国現代奴隷法 (Modern Slavery Act 2015) などの枠組みにおいて、企業がそのサプライチェーンも含めて社会的責任を果たすことが求められており、サプライチェーンも自社の社会的責任の範囲ととらえ、人権、労働、環境などに配慮した取り組みを推進しています。

また、事業活動は人権尊重を前提にしたものでなければならぬと認識し、「ビジネス行動基準」や「人事ポリシー」に児童労働・強制労働の禁止など人権の尊重に関する規定を定めるとともに、海外赴任者への研修やガイドラインの海外への展開を徹底し、海外のグループ会社に浸透を図っています。

## ● 重要課題の実行項目と関連するSDGsの目標・ターゲット

実行項目	関連する SDGs の目標・ターゲット
協働を通じたサプライチェーンとの共存共栄	12.7 調達基本方針、調達先選定基準に基づく持続可能な調達 (CSR 調達) を推進します。
あらゆるステークホルダーの人権尊重	16.2 サプライチェーンを通じて強制労働・児童労働等を禁止し、人権尊重と人権に関する教育を徹底します。

### 推進体制

人権尊重の考え方を含む「人事ポリシー」の展開や、海外赴任前研修における人権啓発教育は、東洋インキSCホールディングス (株) のグループ人事部が行っています。また、人権侵害を含むコンプライアンス違反に関しては、社内外の「コンプライアンスオフィス」が対応しています。

グループ全体の原材料調達に関するサプライチェーンマネジメントは、東洋インキSCホールディングス (株) のグループ購買部が行っています。原材料の紛争鉱物の管理については、生産・物流センター リスクマネジメント推進部の貿易管理部門が担当しています。

### マネジメントからのメッセージ

近年、環境や危険品に対する規制が強化され、原材料を調達し安定供給することが難しくなっています。加えて、海外も含めたステークホルダーからの企業のCSRの取り組みに対する期待も年々高まっており、お取引先を含めたサプライチェーン全体でのCSR活動が問われています。

東洋インキグループでは、OECD多国籍企業行動指針など国際的な社会規範も考慮して調達基本方針を見直し、グローバルな視点から人権や環境にも配慮したCSR調達をより一層強化していきます。



執行役員  
グループ購買部  
部長

村上 正

## 人権に関する取り組み

### ●人権尊重の考えの定着

「ビジネス行動基準」の中に、あらゆる差別の禁止、セクシャルハラスメント・パワーハラスメントの禁止、プライバシーの尊重、児童労働・強制労働の禁止を明記し、職場ごとにコンプライアンスミーティングを行うなど、積極的な啓発活動を行っています。

### ●人権に関する教育

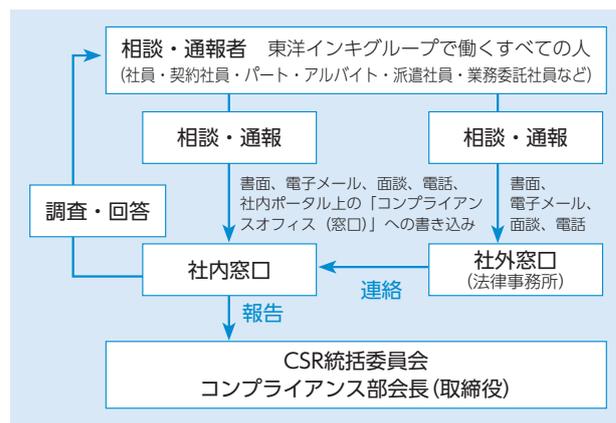
事業のグローバル展開に合わせて、2013年度より海外赴任前研修に人権啓発の教育を導入し、海外で業務をする際の人権侵害のリスクに関して講義を行っています。人事管理に関する教育も同時に行っており、地域の文化・慣習の尊重と地域との共生についても学んでいます。

### ●人権侵害に関する通報窓口

人権侵害を含めたコンプライアンスに関する通報窓口として、社内外にコンプライアンスオフィスを設置

し、通報に基づき事実関係を調査して、問題発生の懸念があれば速やかに対策を講じています。また、通報者の保護と秘密保持に最大限配慮しています。

### 内部通報の仕組み



## サプライチェーンマネジメント

### ●CSR調達

東洋インキグループは、「原材料購買規程」を制定するとともに、「調達基本方針」「調達先選定基準」に基づいたCSR調達を推進しており、CSR調達を通じて、サプライチェーンにおける順法性の確保、労働環境・地球環境の改善に貢献したいと考えています。

このため、①調達基本方針の周知、②お取引先に対する検証・監査、③社員の理解深化、の施策を実施しており、2018年度は、CSR調達のグローバル展開に向けて、中国地区および韓国での調達基本方針の周知などの活動を行いました。

### ●サプライチェーンマネジメントに関する調査への対応

近年、Sedex (Supplier Ethical Data Exchange) や EcoVadis など、第三者のプラットフォームを用いて、お客様から労働慣行や環境、労働安全等に関する調査が行われています。東洋インキグループは、これらの調査への対応を通じて、お客様と共にサプライチェーンマネジメントの構築を進めています。

- ・ Sedexの評価(トーヨーケム(株)川越製造所) : SAQリ スクスコア1.16 (Low)
- ・ EcoVadisの評価(東洋インキSCホールディングス(株)) : 52 (SILVER)

### GPN「持続可能な調達アクションプログラム」による評価

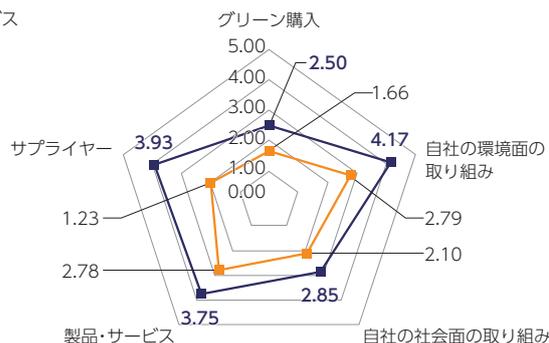
2018年6月から登録が開始されたグリーン購入ネットワーク(GPN)の「持続可能な調達アクションプログラム」において、東洋インキSCホールディングス(株)はすべての項目で回答平均を上回り、4段階評価で「B」という結果でした。

■ 東洋インキSCホールディングス  
■ 平均値

4段階評価  
(A・B・C・D)

**B**

※平均値は2018年12月末時点



# 社員を大切にし、幸せや働きがいを追求する



## ● 基本的な考え方と方針

東洋インキグループの経営哲学は「人間尊重の経営」です。「多様な個の夢の実現の尊重」を行動指針の一つに掲げ活動を行ってきました。グループの強みを生かして社会に貢献していくために、性別や国籍、年齢、障がいの有無にかかわらず多様な人材が個々の能力を最大限に発揮し、やりがいをもちながら働くことのできる職場づくりを目指しています。また、社員の多様な価値観やキャリア志向を尊重し、新たな領域にチャレンジする人材や質の高い仕事を実践できる人材の育成に努めています。

安全と健康に配慮した職場環境を提供するため、労働災害の撲滅、安全教育、適正な労務管理、メンタルヘルスの向上などに取り組んでいます。また、育児や介護の支援、職場でのコミュニケーションの支援などにより、ワークライフ・バランスを重視した働き方改革を進めています。

## ● 重要課題の実行項目と関連するSDGsの目標・ターゲット

実行項目	関連する SDGs の目標・ターゲット (抜粋)
社員の満足につながる労働安全衛生の徹底と健康経営の推進	4.4 新興国への工場進出による雇用創出、生産支援や各拠点での積極的な人材育成により、技術的・職業的スキルを備えた社員の拡大に努めます。 5.1 新卒女性採用率の向上、女性社員のキャリア意識の促進を目的とした研修などを実施し、女性の活躍推進を図ります。
組織の活性化に向けたダイバーシティ推進	5.5 意思決定への女性の参画を図るため、女性役員や女性管理職の拡大を図ります。 8.5 障がい者の雇用を拡大し、活躍できる環境を整備します。
グローバルな視野・能力を持つ人材の育成	8.7 海外も含めて強制労働・児童労働の禁止を徹底します。 8.8 グループ全体で労働安全、保安防災活動を推進し、安全・安心な労働環境を促進します。

※関連するSDGsの目標・ターゲットの詳細については、「CSR活動報告・データ2019」に記載しています。

### 推進体制

国内の人材活用や育成、健康経営の推進や働き方改革は、東洋インキSCホールディングス(株)グループ人事部が主体となって行っています。2007年には、「東洋インキ専門学校」を開講し、各種研修や自己啓発活動を実施しています。また、「東洋インキグループ 人事ポリシー」を海外関係会社へ展開することで、グループ全体での人事管理体制の整備とベクトル合わせを行っています。

安全・防災活動については、生産・物流センター リスクマネジメント推進部が、各事業所の安全部門と連携して活動を行っています。

### マネジメントからのメッセージ

少子高齢化による労働人口の減少、共働き世帯や介護を抱える社員の増加、労働法制の強化など雇用・労働環境は急速に変化しています。また、国や地域による雇用慣行・労働法制の違いにも配慮する必要があります。

国内においては「女性活用の推進」「育児への支援」「健康経営の実践」、海外においては「次世代リーダーの育成・確保」が重要課題であり、快適で自己実現のできる職場環境の醸成に向けて、全社員が働きがいをもち、いきいきと働ける環境を整備していきます。



グループ人事部  
部長  
関野純二

## ダイバーシティ推進に関する取り組み

### 女性の活躍推進

2016年4月に公表した「女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画」の中では、目標の一つとして国内での新卒女性採用比率30%を掲げています。直近3年間では新入社員の30%以上が女性となっており、配属部門も多岐にわたっています。今後も女性の積極的な採用と活躍の場の拡大に取り組んでいきます。

また、女性社員を対象としたキャリア意識の促進を目的とした研修と、上司を対象とした女性社員のキャリア形成を支援するための意識改革を目的とした研修を行い、相互理解の促進に取り組んでいます。

#### ■「えるぼし」認定を受けています

東洋インキSCホールディングス(株)は、女性の採用、継続就業、労働時間、多様なキャリアコースに関する実績が評価され、女性活躍推進法に基づく「えるぼし」認定を受けています。

女性社員のキャリア形成支援のための研修を2015年度から継続して実施するなど、女性社員が一層活躍できる環境・風土づくりに取り組んでいます。



### シニア世代の活躍推進

生涯現役社会において社員一人ひとりが役割を發揮し続けることを目的に、2018年9月より、国内の正社員を対象に定年年齢を63歳から65歳へ延長しました。キャリア形成の支援策として、働きがいの継続につながるキャリア教育や、シニア世代に配慮した職場環境の整備、健康増進などにも取り組んでいます。

### 障がい者の活躍推進

国内の障がい者雇用率は、2018年6月現在1.96%です。2018年は、十条センターと埼玉製造所にて知的障がいのある特別支援学校の生徒の就業実習を行い、2019年4月より2名の採用に結び付けました。障がい者の長期的な就労の実現へ今後も継続して取り組んでいきます。

また、三永インキ&ペイント製造(株)(韓国)では、改正「障害者雇用法」に基づき、2018年10月と11月の2回、専門講師による「職場内障害者認識改善教育」を実施しました。

### 生産現場で働く女性社員のコメント

#### 働きやすい職場創出に向けて

リキッド生産部では、私が初の女性社員です。ある時、どうしても一人では難しい作業があり、先輩にアドバイスを求めたことがあります。重いものを高い所へ上げる作業だったのですが、高さを変えられる台車を導入してもらい、時間はかかっても一人で作業ができるようになりました。その際に先輩から「あなたにできないことなんて、何一つないんだよ」という言葉をいただき、とても勇気づけられたことを覚えています。今は、なにか問題があったら周囲に相談しながら、自分自身で工夫し解決できるよう心がけており、それがこの仕事の面白さでもあることを改めて実感しています。



東洋インキ(株)  
埼玉製造所  
リキッド生産部

### 海外の女性管理職のコメント

#### 公正で親しみやすい管理職に

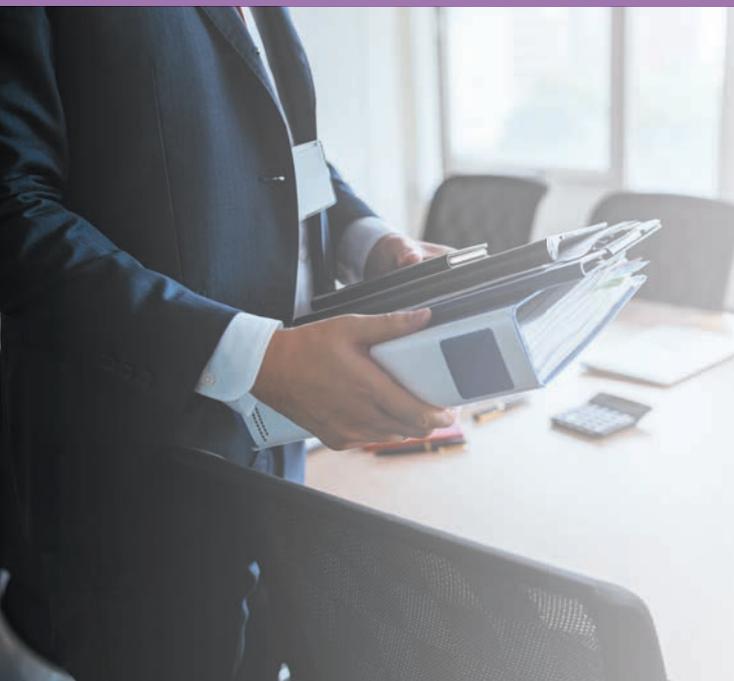
1988年に入社し、秘書や管理部門を経て、2009年から現職にあります。人事部は経営と社員の間の媒体として、公正で親しみやすい存在であり、また、マネージャーとして模範となって部下を導き、責任を果たす必要があると考えています。7年前に栄養士の資格を取得し、それを生かして、より健康的に食べることを目的とした「Healthy Wednesday Project」を立ち上げました。TSCでは、女性社員は平等で敬意をもって処遇されています。私も仕事にやりがいを感じており、会社とともに成長したいと思っています。



TOYOICHEM SPECIALTY CHEMICAL  
SDN. BHD (TSC)  
HR / ADMIN MANAGER

Rebecca Chin

# 信頼を支える 堅実な企業基盤を築く



## ● 基本的な考え方と方針

コーポレート・ガバナンスを強化していくことは、腐敗・汚職の防止や企業リスクの回避だけでなく、企業の収益性や中長期的な企業価値の向上と、持続的な成長を支えます。また、企業が持続可能な成長を続けていくためには、対話を通じて地域の懸念や期待を把握し、互いの関係性が好循環となるように努めていく必要があります。

東洋インキグループは、迅速な意思決定、責任の所在の明確化など、健全で透明性の高い経営体制を構築し、社外取締役の役割強化、内部統制システムの整備など、コーポレート・ガバナンス体制の充実に取り組んでいます。また、対話による地域の課題解決や社会貢献活動を通じて、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、これらの取り組みと積極的な情報開示を通じて、社会からの信頼と企業価値の向上を目指しています。

## ● 重要課題の実行項目と関連するSDGsの目標・ターゲット

実行項目	関連する SDGs の目標・ターゲット
コンプライアンスの徹底	10.3 コンプライアンスの徹底を推進し、法令を順守して適切に行動します。 16.5 国内外において、汚職や贈賄を行いません。
腐敗・汚職の撲滅	
確実なリスクマネジメント、災害対応の推進	
適時・適切かつ積極的な情報開示と ステークホルダー・コミュニケーションの強化	
事業を通じた地域社会発展への貢献	
地域が抱える課題解決への貢献	

### 推進体制

持株会社である東洋インキSCホールディングス(株)は、ガバナンスの中心に位置し、グループ戦略の立案およびリスク管理と説明責任を全うするための業務を遂行しています。

グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るため、基本方針に基づき、コーポレート・ガバナンスの充実に継続的に取り組むとともに、理想的な企業統治の構築をCSR行動指針に掲げ、CSR統括委員会の各部会の活動を通してコンプライアンス、リスクマネジメントの取り組みを推進しています。

※推進体制の詳細は、「CSR活動報告・データ2019」に記載しています。

### マネジメントからのメッセージ

2018年度も西日本豪雨や北海道胆振東部地震などの自然災害が発生し、東洋インキグループの事業活動も影響を受けました。製品を安定供給し、お客様の信頼に応えるためには、自然災害だけでなくさまざまな事案に対して柔軟に対応できる体制の構築が重要です。リスクと機会の把握、緊急時の体制の見直し、新しいリスクへの感知力の向上をグローバルで推進し、ガバナンスの強化を図ります。



取締役  
(法務担当)

井出和彦

## グローバルでのマネジメント強化

1988年、東洋インキグループは本格的なグローバル展開を開始し、マレーシア、アメリカ、中国にグループ会社を設立しました。現在では、売上高の42%、社員の60%を海外が占めています。東洋インキグループは、グローバル市場での競争を勝ち抜くと同時に、ステークホルダーから十分な信頼を得るため、グローバルでのマネジメントを強化しています。

### ●グローバルマネジメントフォーラム

2018年6月と11月に「グローバルマネジメントフォーラム」を開催しました。グループ経営会議メンバー、各地域の代表・各社の社長・取締役および関連部門長がグループのグローバル戦略・施策や、各地域の事業戦略課題の共有などを行い、フォーラム後に「共同声明」を発信しました。



グローバルマネジメントフォーラム

### ●情報発信と共有化

東洋インキグループは、拠点運営に有用な業務の標準化を進めており、2015年度に「拠点経営ガイドブック」を作成し海外の関係会社に配布しています（2018年1月に第2版を配布）。また、人事の基本的な考え方を体系化した「人事ポリシー」を配布し、人事に関するビジョン・戦略の共有を図っています。

### ●グローバルでの生産支援

東洋インキ(株)埼玉製造所では、海外の生産拠点からの研修受け入れや新工場の立ち上げ、既存拠点の生産支援などを行っており、2014年度から2018年度まで延べ3,034名が海外での支援を行いました。2018年10月に上海東洋油墨制造有限公司において、第2回海外拠点・生産ネットワーク会議を開催し、海外拠点の工場マネジメント力の強化を図っています。



第2回海外拠点・生産ネットワーク会議出席者

## 社外取締役からのコメント

### 不透明で不確実性が高まる時代の中、 「<sup>せいへん</sup>蛻変の経営」の推進に向けて

東洋インキグループが創業時から現在までの長期にわたり社会や地域との共生を続けてきていることは、取締役会での種々の議論の随所で、あるいはCSR報告書での確に了知できます。また、各職場、社員の皆さんにもCSRの重要性が幅広く認識されています。

さらなる推進のためCSRの重要課題を策定されていますが、重要課題1、2は社会にイノベーションや課題解決に資する新たな価値を創出していくものであり、社会と自社の持続可能な成長を推進する取り組みの双方の観点から展開されていることは評価されます。重要課題3の人権尊重やCSR調達に関しては、経営理念である「人間尊重の経営」が会社内の土壌に根付いていると感じていますが、それを可視化し、具体的に取り組みを充実させていくことに期待しています。重要課題5に関しては海外拠点を含めた適切なガバナンスをどのように強化していくかが課題だと考えています。

東洋インキグループの製品は私たちの身の回りに数多く存在しています。しかし、それらに具体的な「形」がないた

蛻変：昆虫が卵から幼虫、さなぎ、成虫と変わるさまをいい、環境に対応しながら形を変化させて成長していくことを指す。

社外取締役  
酒井邦造

【現職】  
株式会社日立製作所  
エグゼクティブアドバイザー



め、会社名が社会から認知していただく機会に恵まれていないのが実情です。120年の歴史を有し、社会への貢献を続けてきた東洋インキグループですが、社会のニーズが変化している今だからこそ、真のサイエンスカンパニーとして高機能材料等を軸にした「社会から見える企業体」に蛻変する、形を変えて成長することが求められています。そして優秀な人材の確保の点からも、積極的な情報発信とコミュニケーションの推進を期待します。

取締役会では社外取締役とのコミュニケーションが盛んになってきていますが、私も製造業で培った経験を生かし、別の“常識群”としてオープンマインドで支援していきたいと考えています。

売上高

**2,902億円** 3.6%↑

営業利益

**153億円** 25.3%↓

経常利益

**155億円** 27.3%↓

親会社株主に帰属する当期純利益

**119億円** 19.4%↓

設備投資

**98億円**

研究開発費

**81億円**

資産合計

**3,745億円**

海外売上高比率

**46.4%**

有利子負債

**588億円**

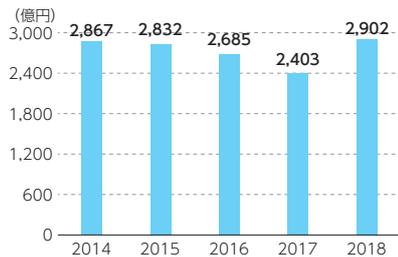
ROE (自己資本利益率)

**5.4%**

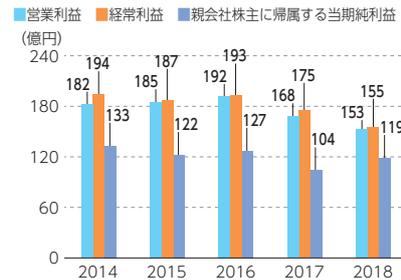
ROA (総資産利益率)

**3.2%**

売上高



営業利益 / 経常利益 / 親会社株主に帰属する当期純利益



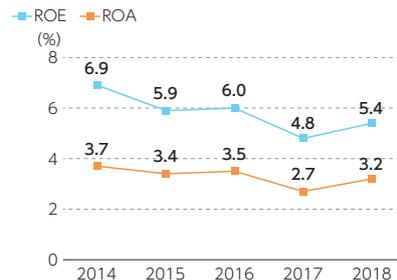
設備投資 / 研究開発費



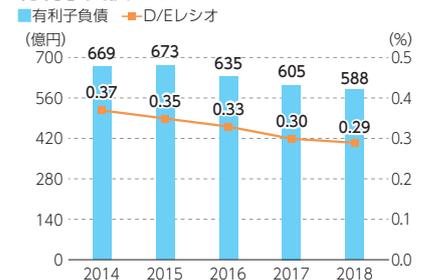
資産合計 / 自己資本比率



ROE / ROA



有利子負債 / D/Eレシオ



## 単元株式数の変更および株式併合

全国証券取引所は「売買単位の集約に向けた行動計画」を発表し、2018年10月1日までに、すべての国内上場会社の普通株式の売買単位を100株に統一するための取り組みを進めてきました。当社もこの趣旨を尊重し、当社株式の売買単位(単元株式数)を1,000株から100株に変更しました(変更日:2018年7月1日)。

また、単元株式数を1,000株から100株に変更するにあたり、投資単位を適切な水準に調整することを目的として、株式併合(5株を1株に併合)を実施しました。



新卒女性採用比率(国内)

35%



平均残業時間(国内)

7.6時間/月

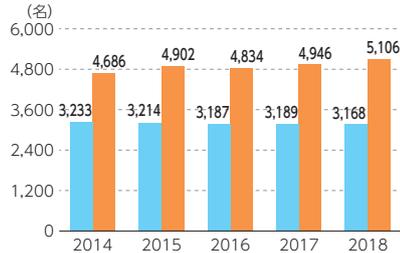


育児休業制度利用者数(国内)

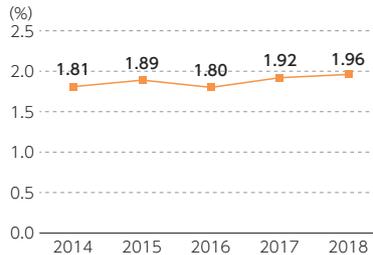
48名

## 社員数

■社員数(国内) ■社員数(海外)

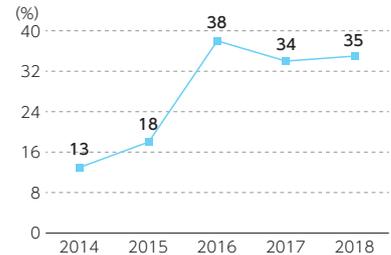


## 障がい者雇用率



※各年度6月現在の障がい者雇用率

## 新卒女性採用比率



※各年度4月入社の新卒女性採用比率



CO<sub>2</sub>排出量(国内+海外)

157,647t



環境調和型製品売上高構成比

60.4%



重大事故の発生

0件



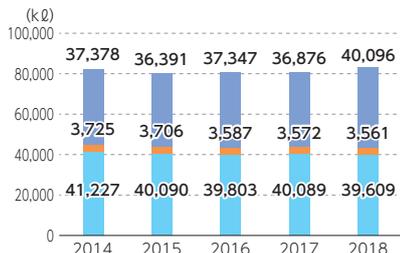
エコマーク認定製品

33製品群

東洋インキグループは、2003年に新聞印刷用インキ「NEWSKING® ECO」でエコマーク認定を取得して以来、印刷インキを中心にエコマーク認定商品の拡大に努めてきました。現在は、平版・新聞インキ18商品、グラビアインキ4商品、樹脂凸版6商品、UV硬化型インキなどその他の印刷インキ4商品、容器包装・梱包資材1商品の33製品群でエコマーク認定を取得しています。

## エネルギー使用量

■中核事業会社 ■国内関係会社 ■海外関係会社



## 化学物質排出量

■中核事業会社 ■国内関係会社 ■海外関係会社



## 水使用量

■中核事業会社 ■国内関係会社 ■海外関係会社

